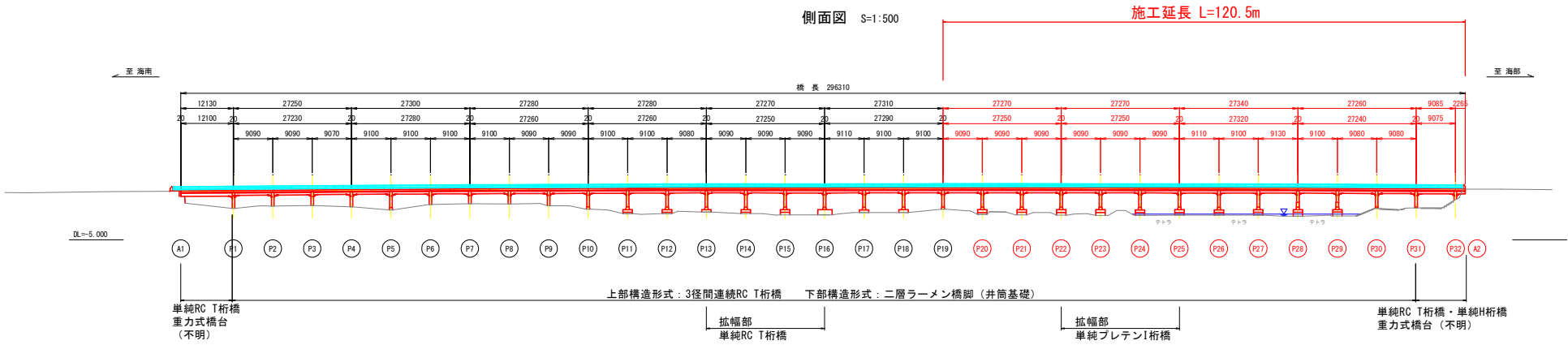
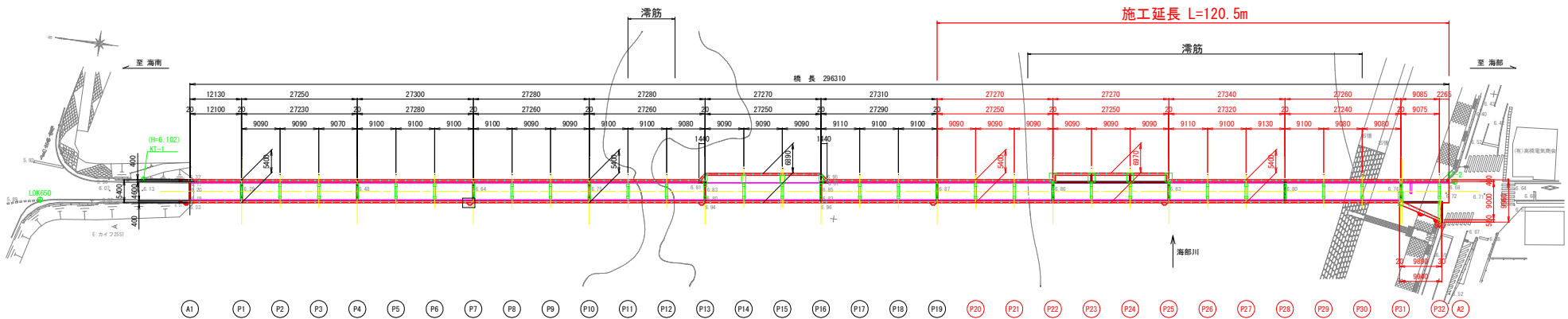


海部川橋 補修一般図(1)

側面図 S=1:500



平面図 S=1:500

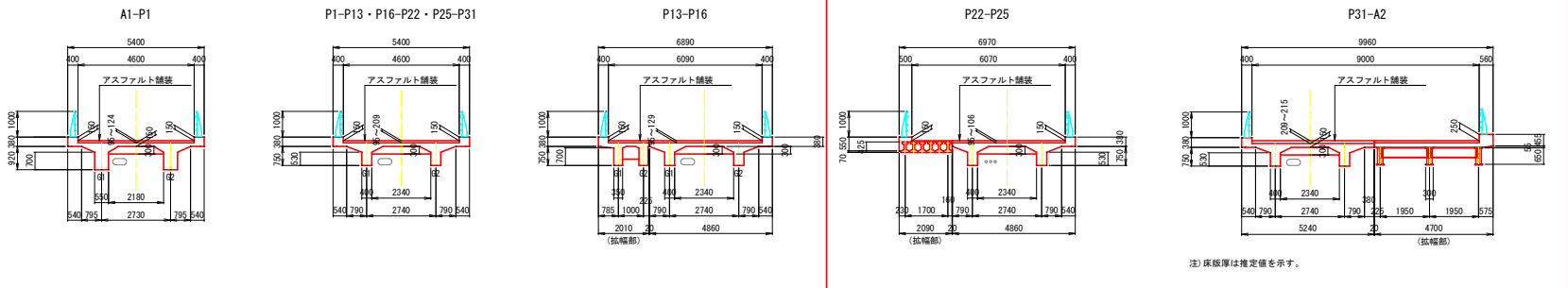


当初設計図面

工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線 (海部川橋)		
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事		
	(一) 西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 補修一般図 (1)		
縮 尺	1/500	図面番号	1 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波渡土整備事務所		

海部川橋 補修一般図(2)

標準断面図 S=1:100



橋梁諸元等データ (橋梁台帳より抜粋)

橋梁名称	海部川橋	橋長	296.30m	上部工	張り出し式ラーメン(RC)	11	高欄・ 防護柵	車道端 (左右)	高欄・防護柵の別	高欄
管理者	徳島県	径間数	33		単純RCT桁(RC)	4			材質(材料)	鋼製
路線名	四万原海部線	支間長	9.1m		単純PCI桁(PC)	3			形式	柱式
路線コード	0299	全幅員	5.400m		単純H桁(鋼)	1			高さ	1.000m
道路種別	一般都道府県道	有効幅員	4.600m	下部工	重力式橋台(不明)	2	交通条件	調査年度:令和3年度		
緊急輸送路の指定	無	平面形状	直線		ラーメン橋脚(井筒基礎)	32		交通量:179台 / 昼間12時間		
架橋条件	河川(二級河川 海部川)	等級	2等橋	床版	材料:コンクリート	t=15cm		荷重制限(8t)		
所在地	海陽町大里～海陽町奥浦	適用示方書	大正15年道示		防水工(シート系)	1352.6m2		C(平成29年道示:海岸からの距離600m)		
緯度・経度	33.59845325, 134.35745833	架設(供用)年次	昭和15年(1940年)	舗装	アスファルト	1352.6m2	迂回路	有(国道55号)		
距離標	1.792km	設計活荷重	TL-14		舗装厚	6～21cm		照明 LED灯 6基(6灯)		

海部川橋_対策工法一覧表

部材	部位(箇所)	代表的な変状の種類	補修工法	部材	部位(箇所)	代表的な変状の種類	補修工法
上部構造	主桁	標準部 (単純RC T桁 3径間連続RC T桁)	ひびわれ・うき 剥離・鉄筋露出 漏水(伝い水)・遊離石灰	下部構造	標準部 橋台(重力式) 橋脚(柱・梁)	ひびわれ・うき・漏水痕 剥離・鉄筋露出 遊離石灰・不法占用	・ひびわれ注入工法、 ・ひびわれ充填工法 ・断面修復工法 ・表面含浸工
		拡幅部1 (単純RC T桁)	ひびわれ・うき 剥離・鉄筋露出			フーチング	・ひびわれ注入工法、 ・ひびわれ充填工法 ・断面修復工法
		第14～第16径間 (単純RC T桁)	ひびわれ・うき 剥離・鉄筋露出			飾りコンクリート	ひびわれ・断面欠損 うき・剥離・鉄筋露出
		第23～第25径間 (単純プレテンT桁)	漏水痕(伝い水)	支保	標準部	健全	・断面修復工法(原形復旧)
		第32径間 (単純H桁)	発錆、腐食		拡幅部1	第14～第16径間	健全
		第32径間 (単純H桁)	発錆、腐食		拡幅部2	第23～第25径間 (単純プレテンT桁)	健全
	横桁	標準部 (単純RC T桁 3径間連続RC T桁)	ひびわれ・うき 剥離・鉄筋露出・漏水		拡幅部3	第32径間 (単純H桁)	コンクリート継ぎの付着
		拡幅部1 (単純RC T桁)	健全	その他	防護欄	橋面両側 防食機能の劣化 モンドキヤップ欠落	・対策工不要 ・対策工不要
		第14～第16径間 (単純RC T桁)	健全		地覆	橋面両側 ひびわれ・うき 鉄筋露出・欠損 遊離石灰	・ひびわれ注入工法、 ・ひびわれ充填工法 ・断面修復工法
		第32径間 (単純RC T桁)	健全		伸縮装置	橋面(伸縮装置本体、 後打ちConc)	鋼製部材の腐食・変形 止水ゴムの劣化・変形 ひびわれ・鉄筋露出
床版	主桁間床版	ひびわれ・うき 遊離石灰	・ひびわれ注入工法、 ・断面修復工法		As舗装	橋面	ひびわれ・うき 剥離・鉄筋露出
		張出床版	ひびわれ・漏水(伝い水) うき・剥離・鉄筋露出 遊離石灰				・第1～第16径間、第32径間(拡幅部) ・A4舗装打換工(切削オーバーレイ工法(表層)) ・第17～第32径間:対策工不要

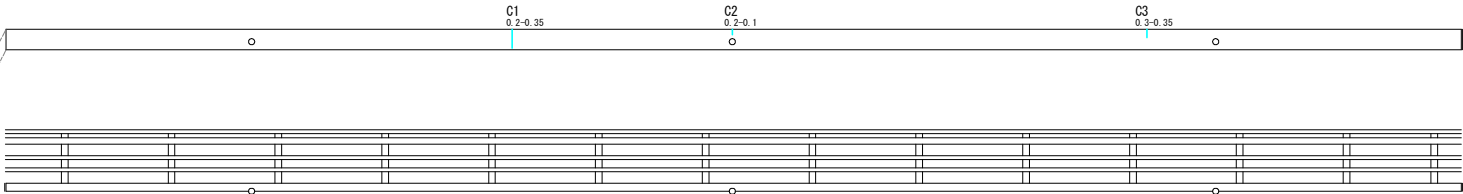
当初設計図面

工事名	R8渡土 四万原海部線(海部川橋)
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事 (一) 四万原海部線
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)
図面名	海部川橋 補修一般図(2)
縮尺	1/100 図面番号 2 / 35
会社名	
事務所名	徳島県美波港土整備事務所

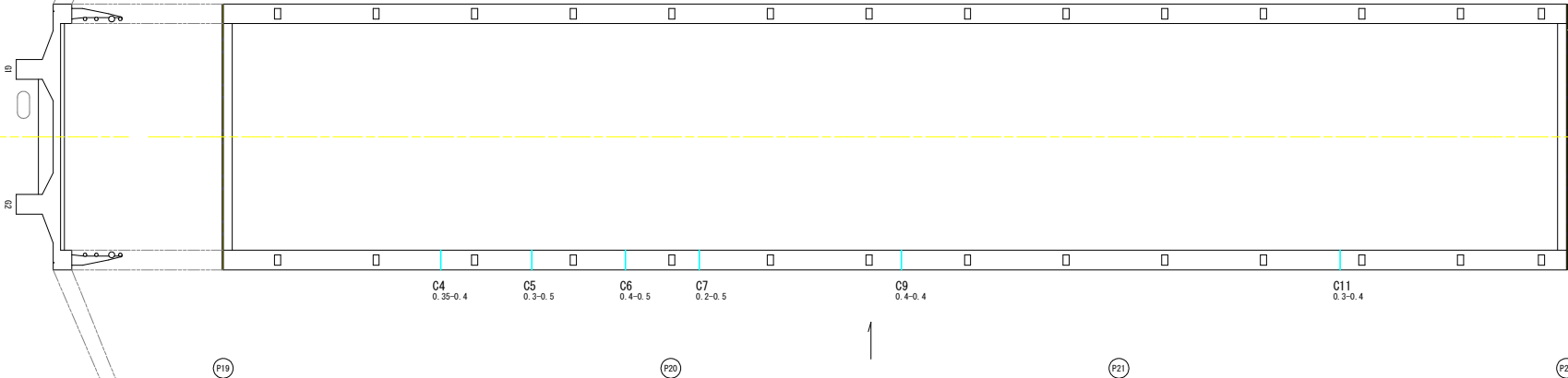
海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その1) S=1:50

橋面P19-P22

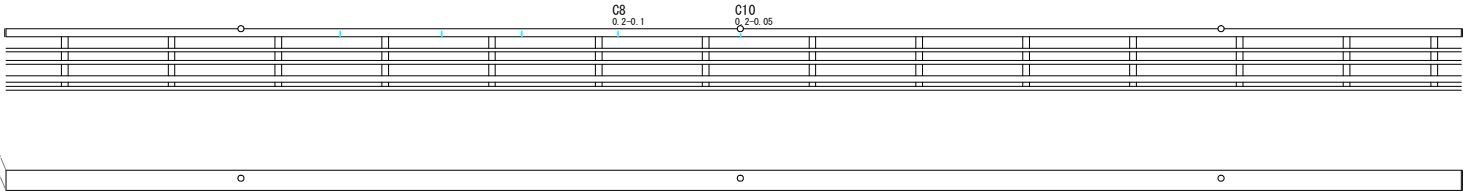
側面図(下流側)



平面図



側面図(上流側)



凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	 幅[mm]-長さ[m]
" (幅0.5~1.0未満)	 幅[mm]-長さ[m]
ひびわれ充填工	 幅[mm]-長さ[m]
断面修復工	

ひびわれ注入工

幅0.2~1.0未満	
測点	数量
C1	0.35
C2	0.10
C3	0.35
C4	0.40
C5	0.50
C6	0.50
C7	0.50
C8	0.10
C9	0.40
C10	0.05
C11	0.40
計	3.65 ㎡

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切斷目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザージェッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

橋面P19-P22

工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その1)		
縮 尺	1/50	図面番号	3 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波郡土佐橋事務所		

海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その2) S=1:60

橋面P22-P25

側面図(下流側)

凡 例	
補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	 幅(mm)-長さ(m)
" (幅0.5~1.0未満)	 幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	 幅(mm)-長さ(m)
断面修復工	

ひびわれ注入工

幅0.2~1.0未満	
測点	数量
C1	0.50
C2	0.60
C3	0.60
C4	0.50
C5	0.40
C6	0.40
C7	0.40
C8	0.50
C9	0.50
C10	0.50
C11	0.50
C12	0.50
C13	0.40
C14	0.50
C15	0.40
C16	0.50
C17	0.50
C18	0.50
C19	0.40
C20	0.40
C21	0.50
計	10.00 m

断面修復工

測点	寸法(m)	面積(m2)
P1	0.10 × 0.10	0.010
P2	0.10 × 0.10	0.010
P3	0.10 × 0.10	0.010
P4	0.10 × 0.10	0.010
P5	0.10 × 0.10	0.010
P6	0.10 × 0.10	0.010
P7	0.10 × 0.10	0.010
P8	0.10 × 0.10	0.010
合計		0.080 m2

当初設計図面

橋面P22-P25

工 事 名	R8渡土 西方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その2)		
縮 尺	1/60	図面番号	4 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波渡土整備事務所		

- 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
- 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
- ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
- ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
- 劣化・不良コンクリートを砕る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断路地を入れ、入念に施工すること。
- 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは取り除きを行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
- 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その3) S=1:50

橋面P25-P28

側面図(下流側)

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	幅(㎢)-長さ(㎢)
〃 (幅0.5~1.0未満)	幅(㎢)-長さ(㎢)
ひびわれ充填工	幅(㎢)-長さ(㎢)
断面修復工	

平面図

ひびわれ注入工

幅0.2~1.0未満	
測点	数量
C1	0.55
C2	0.55
C3	0.55
C4	0.35
C5	0.55
C6	0.55
C7	0.55
C8	0.55
C9	0.55
C10	0.55
C11	0.55
C12	0.55
C13	0.55
C14	0.55
C15	0.50
C16	0.55
C17	0.55
C18	0.55
C19	0.55
C20	0.55
C21	0.55
C22	0.50
C23	0.55
C24	0.55
C25	0.55
C26	0.55
計	14.00 m

側面図(上流側)

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断面目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは取り除きを行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

橋面P25-P28

工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その3)		
縮 尺	1/50	図面番号	5 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波郡土佐橋事務所		

海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その4) S=1:50

橋面P28-P31

側面図(下流側)

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	 幅(㎜)・長さ(㎞)
" (幅0.5～1.0未満)	 幅(㎜)・長さ(㎞)
ひびわれ充填工	 幅(㎜)・長さ(㎞)
断面修復工	

ひびわれ注入工

幅0.2～1.0未満	
測点	数量
C1	0.50
C2	0.40
C3	0.50
C4	0.50
C5	0.50
C6	0.50
C7	0.50
C8	0.40
C9	0.50
C10	0.50
C11	0.50
C12	0.50
C13	0.50
C14	0.50
C15	0.40
C16	0.45
C17	0.50
C18	0.50
C19	0.40
C20	0.50
C21	0.50
計	10.05 m

ひびわれ充填工

幅1.0以上	
測点	数量
J1	0.50
計	0.50 m

平面図

側面図(上流側)

- 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
- 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
- ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深处まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
- ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
- 劣化・不良コンクリートを砕る際には、健全部に損傷を与えないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
- 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは取り除くとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部と10mm以上確保すること。
- 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

橋面P28-P31

工 事 名	R 8 渡土 四方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その4)		
縮 尺	1/50	図面番号	6 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波郡土佐橋事務所		

海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その5) S=1:60

橋面P31-A2

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	
" (幅0.5~1.0未満)	
ひびわれ充填工	
断面修復工	

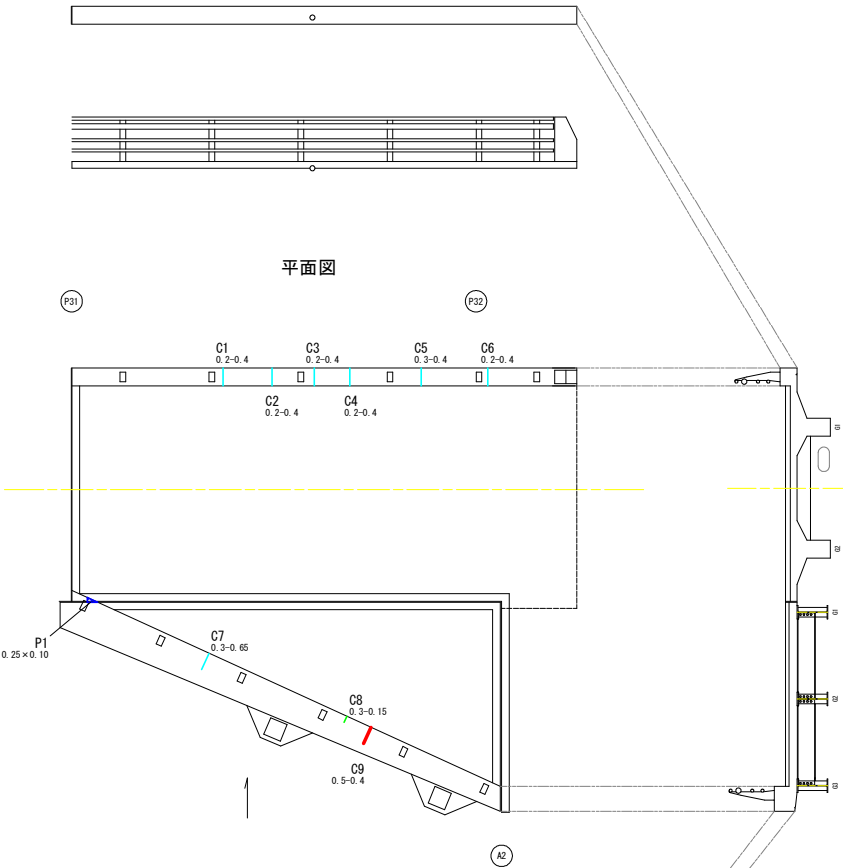
ひびわれ注入工

幅0.2~1.0未満	
測点	数量
C1	0.40
C2	0.40
C3	0.40
C4	0.40
C5	0.40
C6	0.40
C7	0.65
C8	0.15
C9	0.40
C10	0.20
C11	0.15
計	3.95 m

断面修復工

測点	寸法 (m)		面積 (m ²)
P1	0.25	× 0.10	0.025
合計			0.025 m ²

側面図(下流側)



側面図(上流側)

- 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
- 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
- ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
- ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
- 劣化・不良コンクリートを斫る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
- 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは斫り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
- 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

橋面P31-A2

工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線 (海部川橋)		
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事		
	(一) 西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 上部工(路上・地覆)補修図(その5)		
縮 尺	1/60	図面番号	7 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波郡土佐橋事務所		

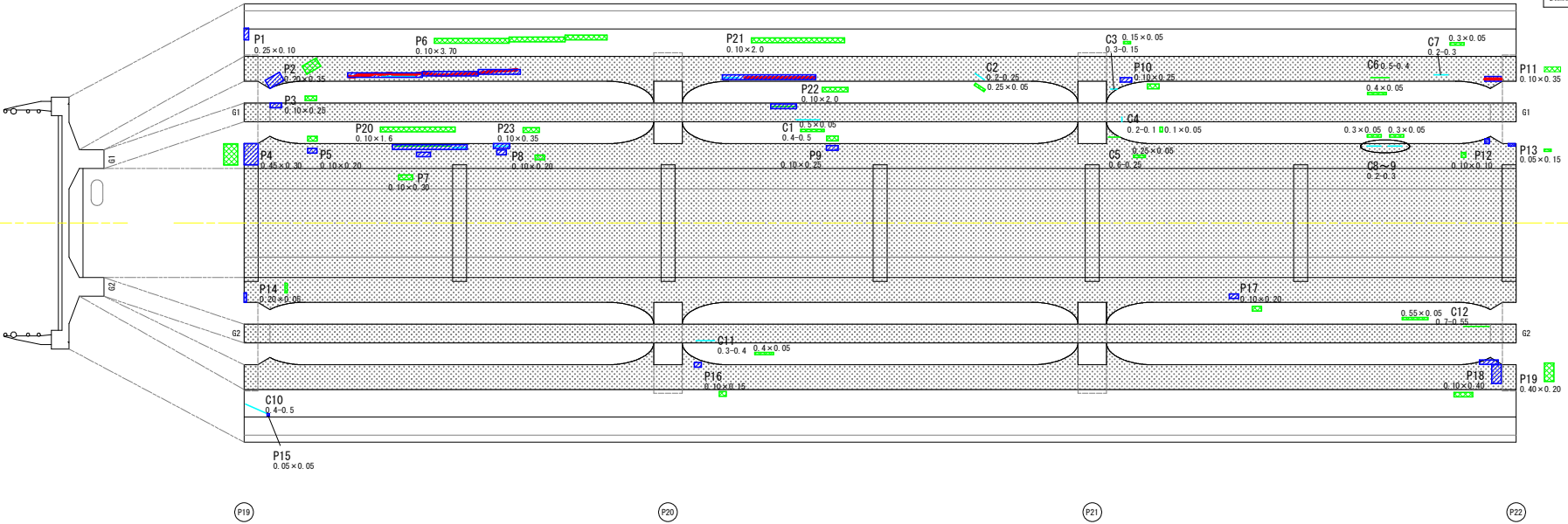
海部川橋 上部工補修図(その6)

S=1:50

桁下P19-P22

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	 幅(mm)・長さ(m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	 幅(mm)・長さ(m)
ひびわれ充填工	 幅(mm)・長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	
表面被覆工 (過年度施工箇所)	



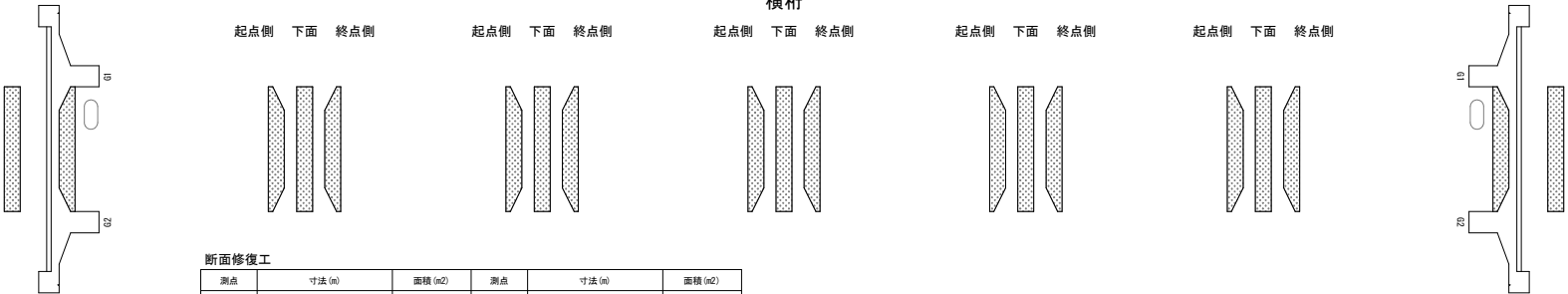
ひびわれ注入工

測点	数量
C1	0.50
C2	0.25
C3	0.15
C4	0.10
C5	0.25
C6	0.40
C7	0.30
C8	0.30
C9	0.30
C10	0.50
C11	0.40
C12	0.55
計	4.00 m

表面含浸工

合計 0.19m2

横桁



断面修復工

測点	寸法 (m)	面積 (m2)	測点	寸法 (m)	面積 (m2)
P1	0.25 × 0.10	0.025	P13	0.05 × 0.15	0.008
P2	0.20 × 0.35	0.070	P14	0.20 × 0.05	0.010
P3	0.10 × 0.25	0.025	P15	0.05 × 0.05	0.003
P4	0.45 × 0.30	0.135	P16	0.10 × 0.15	0.015
P5	0.10 × 0.20	0.020	P17	0.10 × 0.20	0.020
P6	0.10 × 3.70	0.370	P18	0.10 × 0.40	0.040
P7	0.10 × 0.30	0.030	P19	0.40 × 0.20	0.080
P8	0.10 × 0.20	0.020	P20	0.10 × 1.60	0.160
P9	0.10 × 0.25	0.025	P21	0.10 × 2.00	0.200
P10	0.10 × 0.25	0.025	P22	0.10 × 0.55	0.055
P11	0.10 × 0.35	0.035	P23	0.10 × 0.35	0.035
P12	0.10 × 0.10	0.010	合計		1.416 m2

表面含浸工 ※断面修復(既設被覆材除去)施工箇所の同上に表面含浸工を施工。
合計 1.42m2 (過年度表面保護塗装施工箇所のみ)

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは切り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

桁下P19-P22

工 事 名	R 8 渡土 四方原海部線 (海部川橋)
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事 (一) 四方原海部線
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)
図 面 名	海部川橋 上部工補修図(その6)
縮 尺	1/50 図面番号 8 / 35
会 社 名	
事務所名	徳島県美波湾土整備事務所

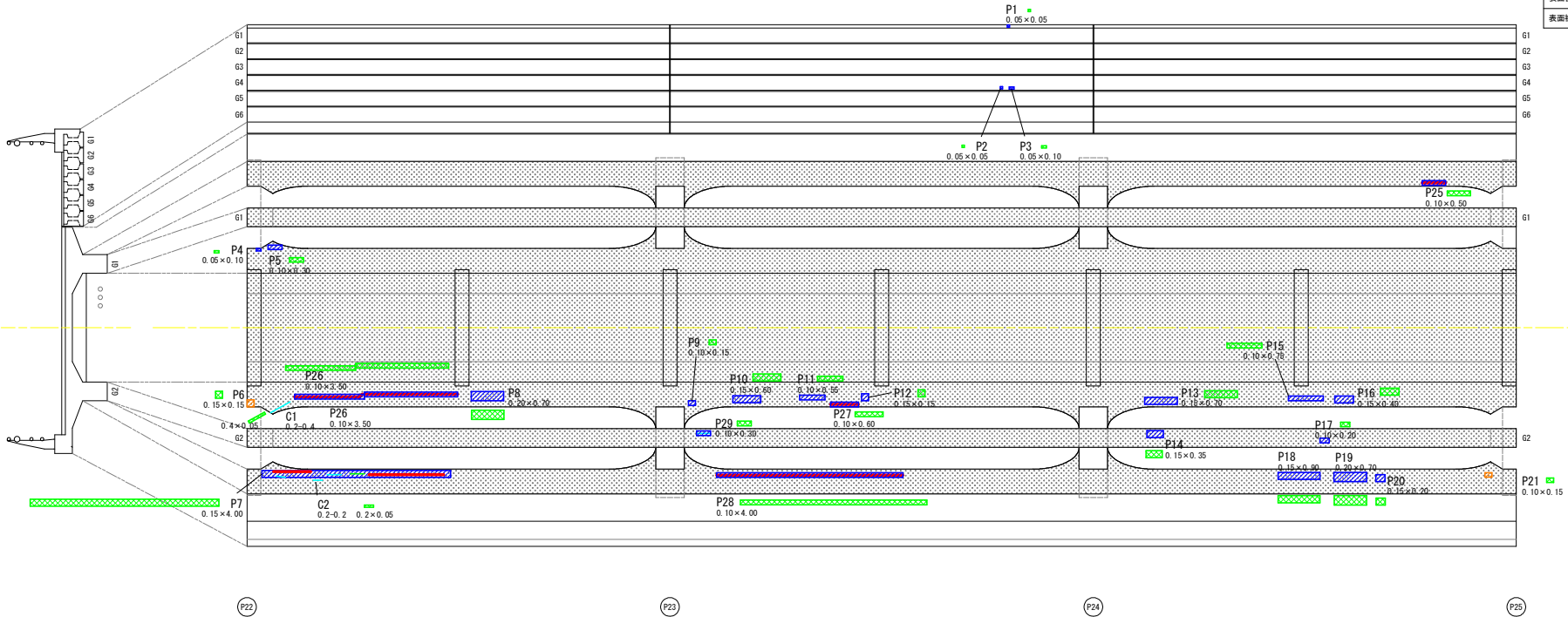
海部川橋 上部工補修図(その7)

S=1:50

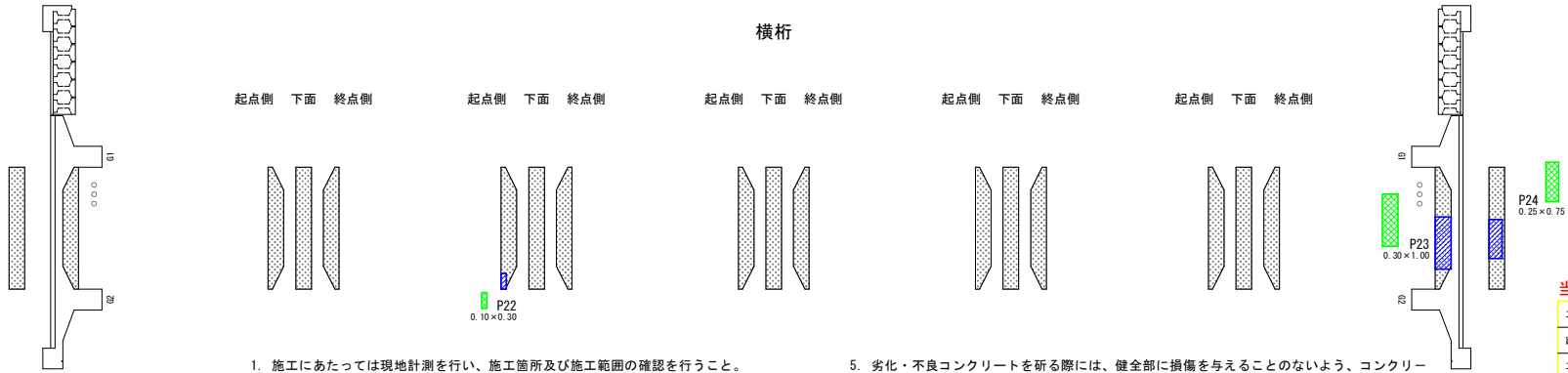
桁下P22-P25

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(mm)-長さ(m)
" (幅0.5~1.0未満)	幅(mm)-長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(mm)-長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	
表面被覆工 (過年度施工箇所)	



横桁



- 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
- 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
- ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
- ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
- 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
- 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
- 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

桁下P22-P25

工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線 (海部川橋)
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事 (一) 西方原海部線
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)
図 面 名	海部川橋 上部工補修図(その7)
縮 尺	1/50 図面番号 9 / 35
会 社 名	
事務所名	徳島県美波湾土整備事務所

海部川橋 上部工補修図(その8)

桁下P22-P25数量表

ひびわれ注入工

幅0.2～1.0未満	
測点	数量
C1	0.40
C2	0.20
計	0.60 m

表面含浸工

合計 0.03m2

※断面修復（既設被覆材除去）施工箇所の同上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

既設被覆材除去

測点	寸法 (m)		面積 (m2)
P6	0.15	× 0.15	0.023
P21	0.10	× 0.15	0.015
合計			0.038 m2

断面修復工

測点	寸法 (m)		面積 (㎡)
P1	0.05	×	0.003
P2	0.05	×	0.003
P3	0.05	×	0.005
P4	0.05	×	0.005
P5	0.10	×	0.030
P7	0.15	×	0.600
P8	0.20	×	0.140
P9	0.10	×	0.015
P10	0.15	×	0.090
P11	0.10	×	0.055
P12	0.15	×	0.023
P13	0.15	×	0.105
P14	0.15	×	0.053
P15	0.10	×	0.075
P16	0.15	×	0.060
P17	0.10	×	0.020
P18	0.15	×	0.135
P19	0.20	×	0.140
P20	0.15	×	0.030
P22	0.10	×	0.030
P23	0.30	×	0.300
P24	0.25	×	0.188
P25	0.10	×	0.050
P26	0.10	×	0.350
P27	0.10	×	0.060
P28	0.10	×	0.400
P29	0.10	×	0.030
合計			2.995 ㎡

表面含浸工

合計 3.02m2

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	 幅(m)×長さ(m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	 幅(m)×長さ(m)
ひびわれ充填工	 幅(m)×長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	
表面被覆工 (過年度施工箇所)	

当初設計図面 桁下P22-P25数量表

工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線（海部川橋） 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	（一） 西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 上部工補修図(その8)		
縮 尺	—	図面番号	10 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波渡土整備事務所		

海部川橋 上部工補修図(その9)

S=1:50

桁下P25-P28

凡 例

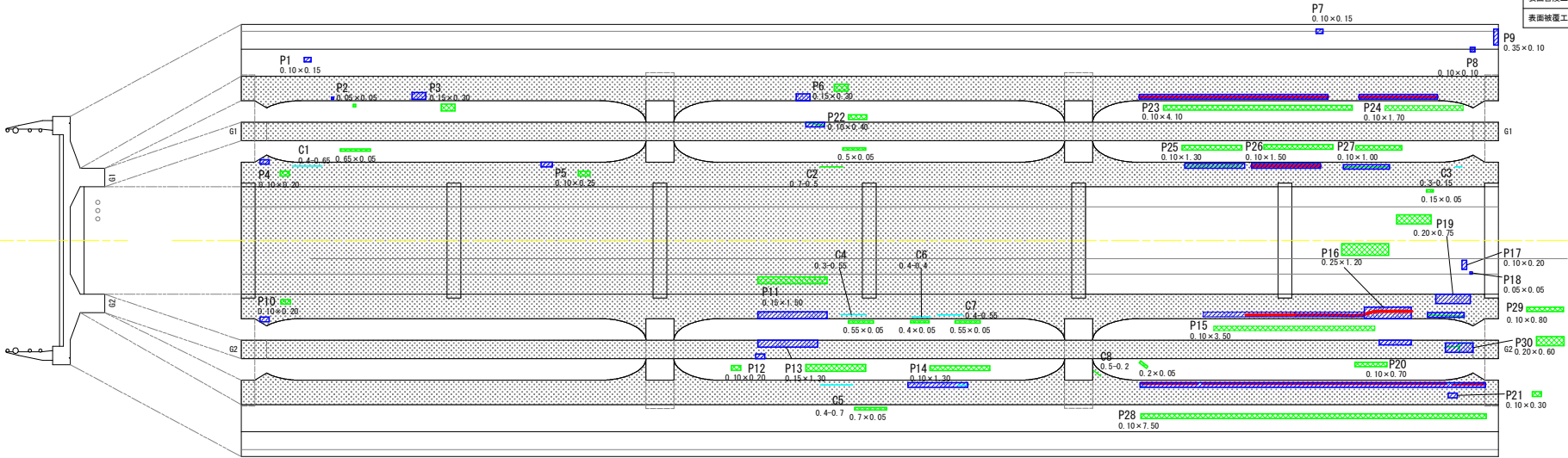
補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	
" (幅0.5～1.0未満)	
ひびわれ充填工	
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	
表面被覆工 (過年度施工箇所)	

ひびわれ注入工

測点	数量
C1	0.65
C2	0.50
C3	0.15
C4	0.55
C5	0.70
C6	0.40
C7	0.55
C8	0.20
計	3.70 m

表面含浸工

合計 0.19m2



P25

P26

P27

P28

横桁

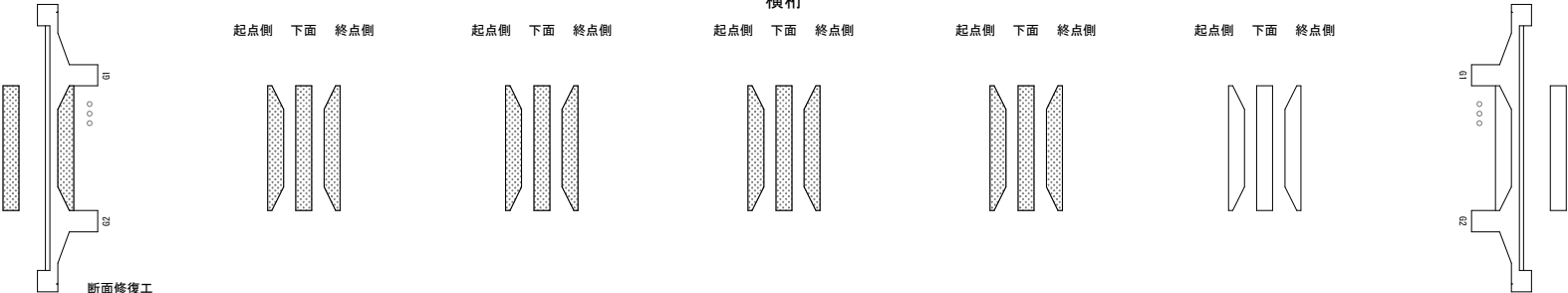
起点側 下面 終点側

起点側 下面 終点側

起点側 下面 終点側

起点側 下面 終点側

起点側 下面 終点側



断面修復工

測点	寸法 (m)	面積 (m2)	測点	寸法 (m)	面積 (m2)	測点	寸法 (m)	面積 (m2)
P1	0.10 × 0.15	0.015	P12	0.10 × 0.20	0.020	P23	0.10 × 4.10	0.410
P2	0.05 × 0.05	0.003	P13	0.15 × 1.30	0.195	P24	0.10 × 1.70	0.170
P3	0.15 × 0.30	0.045	P14	0.15 × 1.30	0.195	P25	0.10 × 1.30	0.130
P4	0.10 × 0.20	0.020	P15	0.10 × 3.50	0.350	P26	0.10 × 1.50	0.150
P5	0.10 × 0.25	0.025	P16	0.25 × 1.20	0.300	P27	0.10 × 1.00	0.100
P6	0.15 × 0.30	0.045	P17	0.10 × 0.20	0.020	P28	0.10 × 7.50	0.750
P7	0.10 × 0.15	0.015	P18	0.05 × 0.05	0.003	P29	0.10 × 0.80	0.080
P8	0.10 × 0.10	0.010	P19	0.20 × 0.75	0.150	P30	0.20 × 0.60	0.120
P9	0.35 × 0.10	0.035	P20	0.10 × 0.70	0.070			
P10	0.10 × 0.20	0.020	P21	0.10 × 0.30	0.030			
P11	0.15 × 1.50	0.225	P22	0.10 × 0.40	0.040	合計		3.741 m2

表面含浸工 ※断面修復 (既設被覆材除去) 施工箇所の同上に表面含浸工を施工。
合計 3.64m2 (過年度表面保護塗装施工箇所のみ)

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを折る際には、健全部に損傷を与えないこと、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは折り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

桁下P25-P28

工 事 名	R 8 渡土 四方原海部線 (海部川橋)
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事 (一) 四方原海部線
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)
図 面 名	海部川橋 上部工補修図(その9)
縮 尺	1/50 図面番号 11 / 35
会 社 名	
事務所名	徳島県美波郡土佐橋事務所

海部川橋 上部工補修図(その10)

S=1:50

桁下P28-P31

凡 例

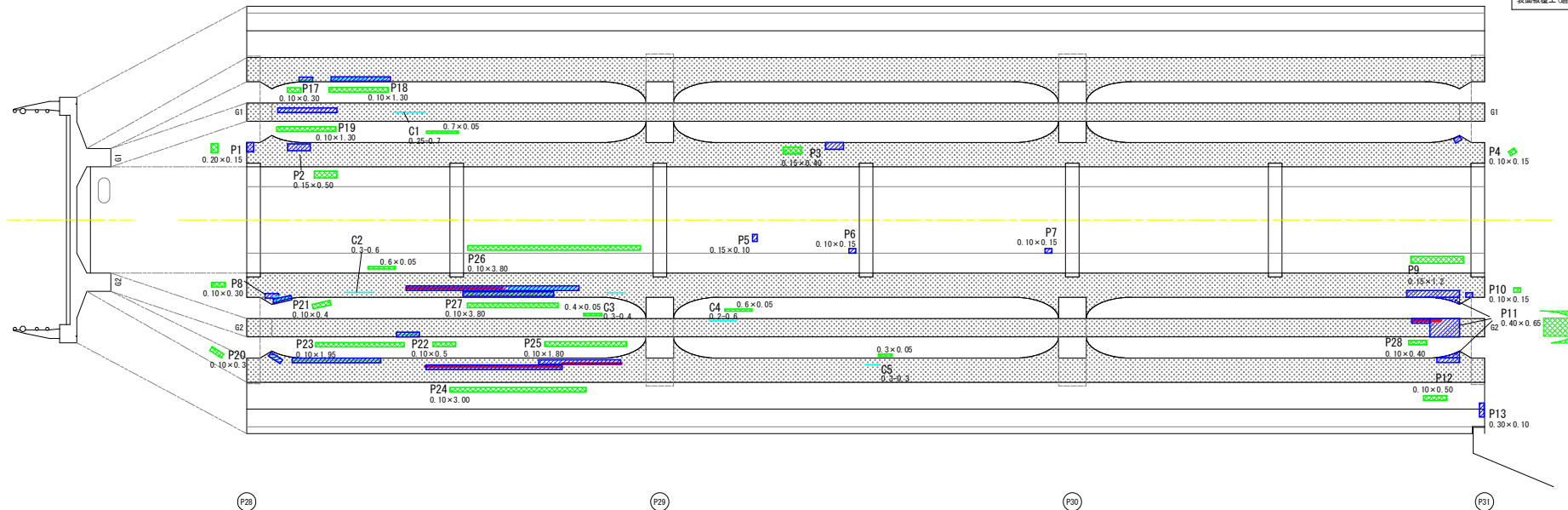
補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	
" (幅0.5～1.0未満)	
ひびわれ充填工	
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	
表面被覆工 (過年度施工箇所)	

ひびわれ注入工

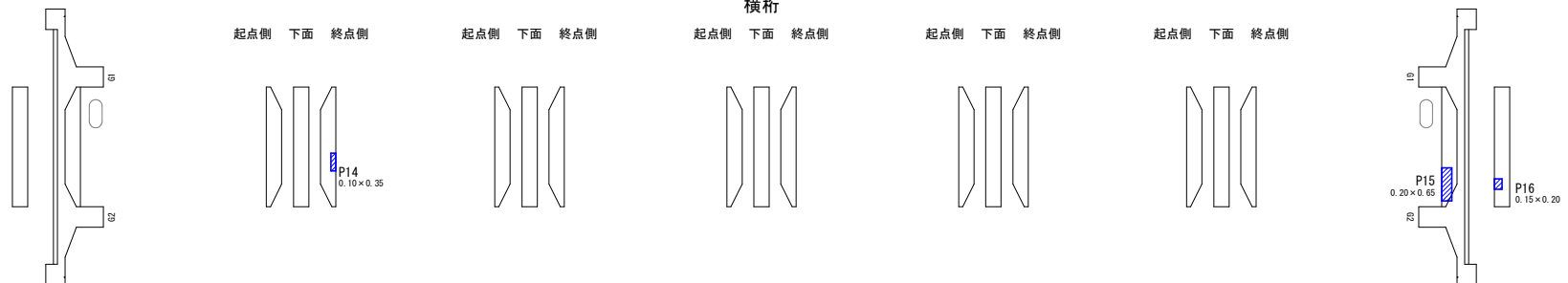
幅0.2～1.0未満	
測点	数量
C1	0.70
C2	0.60
C3	0.40
C4	0.60
C5	0.30
計	2.60 m

表面含浸工

合計 0.13m2



横桁



断面修復工

測点	寸法 (m)	面積 (m2)	測点	寸法 (m)	面積 (m2)	測点	寸法 (m)	面積 (m2)
P1	0.20 × 0.15	0.030	P11	0.40 × 0.65	0.260	P21	0.10 × 0.40	0.040
P2	0.15 × 0.50	0.075	P12	0.10 × 0.50	0.050	P22	0.10 × 0.50	0.050
P3	0.15 × 0.40	0.060	P13	0.30 × 0.10	0.030	P23	0.10 × 1.95	0.195
P4	0.10 × 0.15	0.015	P14	0.10 × 0.35	0.035	P24	0.10 × 3.00	0.300
P5	0.15 × 0.10	0.015	P15	0.20 × 0.65	0.130	P25	0.10 × 1.80	0.180
P6	0.10 × 0.15	0.015	P16	0.15 × 0.20	0.030	P26	0.10 × 3.80	0.380
P7	0.10 × 0.15	0.015	P17	0.10 × 0.30	0.030	P27	0.10 × 2.00	0.200
P8	0.10 × 0.30	0.030	P18	0.10 × 1.30	0.130	P28	0.10 × 0.40	0.040
P9	0.15 × 1.20	0.180	P19	0.10 × 1.30	0.130			
P10	0.10 × 0.15	0.015	P20	0.10 × 0.30	0.030	合計		2.690 m2

表面含浸工

合計 2.42m2

※断面修復 (既設被覆材除去) 施工箇所の同上に表面含浸工を施工。
(過年度表面保護塗装施工箇所のみ)

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを折る際には、健全部に損傷を与えないこと、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは折り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

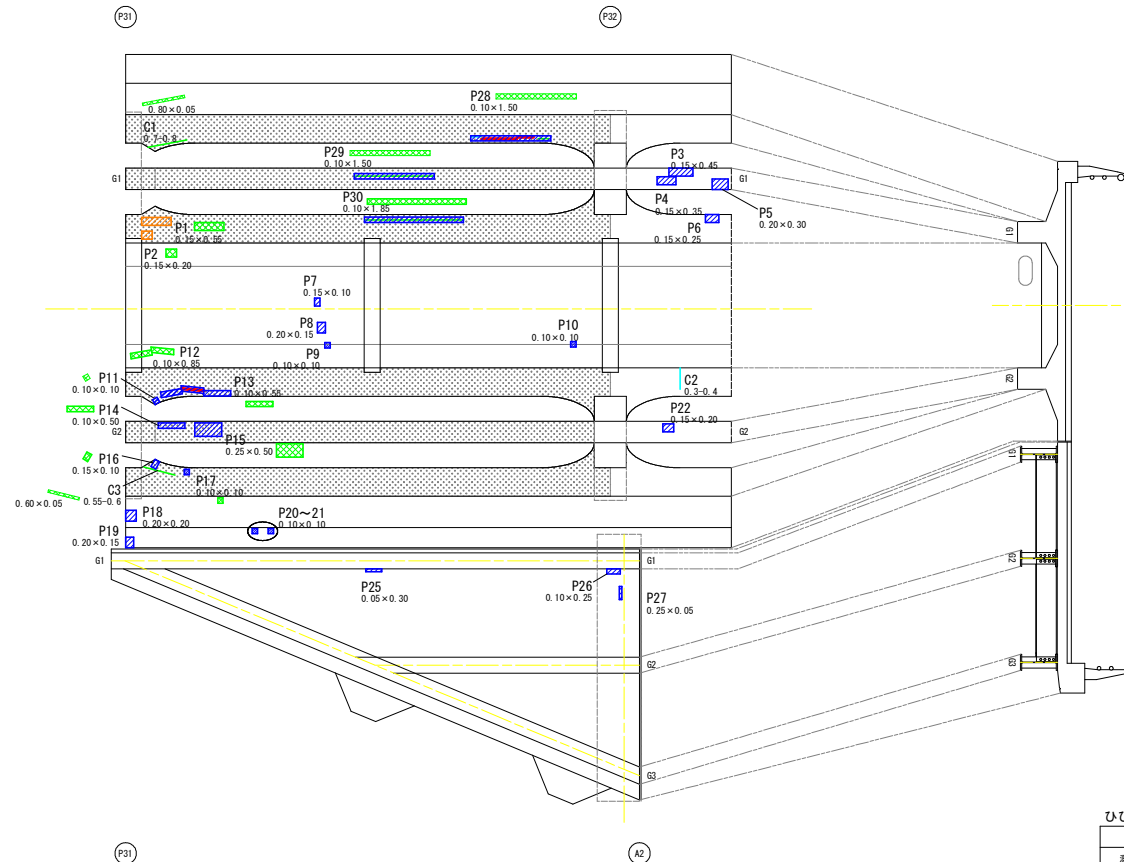
桁下P28-P31

工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線 (海部川橋)
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事 (一) 西方原海部線
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)
図 面 名	海部川橋 上部工補修図 (その10)
縮 尺	1/50 図面番号 12 / 35
会 社 名	
事務所名	徳島県美波郡土佐橋事務所

海部川橋 上部工補修図(その11)

S=1:50

桁下P31-A2



ひびわれ注入工

幅0.2～1.0未満	
測点	数量
C1	0.80
C2	0.40
C3	0.60
C4	0.50
計	2.30 m

表面含浸工

合計 0.07m2

既設被覆材除去

測点	寸法(m)	面積(m2)
P1	0.15 × 0.55	0.083
P2	0.15 × 0.20	0.030
合計		0.113 m2

断面修復工

測点	寸法(m)	面積(m2)
P3	0.15 × 0.45	0.068
P4	0.15 × 0.35	0.053
P5	0.20 × 0.30	0.060
P6	0.15 × 0.25	0.038
P7	0.15 × 0.10	0.015
P8	0.20 × 0.15	0.030
P9	0.10 × 0.10	0.010
P10	0.10 × 0.10	0.010
P11	0.10 × 0.10	0.010
P12	0.10 × 0.85	0.085
P13	0.10 × 0.55	0.055
P14	0.10 × 0.50	0.050
P15	0.25 × 0.50	0.125
P16	0.15 × 0.10	0.015
P17	0.10 × 0.10	0.010
P18	0.20 × 0.20	0.040
P19	0.20 × 0.15	0.030
P20	0.10 × 0.10	0.010
P21	0.10 × 0.10	0.010
P22	0.15 × 0.20	0.030
P23	0.10 × 0.40	0.040
P24	0.10 × 0.40	0.040
P25	0.05 × 0.30	0.015
P26	0.10 × 0.25	0.025
P27	0.25 × 0.05	0.013
P28	0.10 × 1.50	0.150
P29	0.10 × 1.50	0.150
P30	0.10 × 1.85	0.185
合計		1.372 m2

表面含浸工

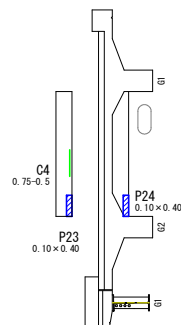
合計 0.95m2

※断面修復（既設被覆材除去）施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

横桁

起点側 下面 終点側

起点側 下面 終点側



1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを析る際には、健全部に損傷を与えないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは析り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

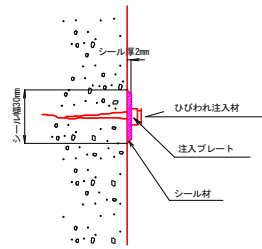
桁下P31-A2

工 事 名	R8 渡土 西方原海部線（海部川橋） 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	（一） 西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 上部工補修図（その11）		
縮 尺	1/50	図面番号	13 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波港土整備事務所		

海部川橋 補修標準図

ひびわれ注入工

(国土交通省土木補修用エポキシ樹脂注入材3種 適合品)



注) ひびわれ注入は幅0.2mm以上を行うこととし、補修工事の際は設計図と現地状況を確認の上、変化がある場合について協議を行うこと

※ 施工手順

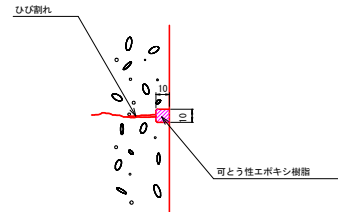
- 1 表面処理
- ↓
- 2 注入プレート貼付
- ↓
- 3 シール材塗布
- ↓
- 4 注 入
- ↓
- 5 養 生
- ↓
- 6 仕 上 げ

※ 注

1. 注入対象となるひびわれは、ひびわれ幅0.2mm以上のもとする。
2. ひびわれ注入深さは、0.05mを想定しているが、ひびわれの最深部まで確實に注入すること。
3. 注入パイプの間隔は、30cm程度とする。

ひびわれ充填工

(可とう性エポキシ樹脂)



注) ひびわれ充填は幅1.0mm以上を行うこととし、施工前に再調査し、施工箇所を決定すること。

※ 施工手順

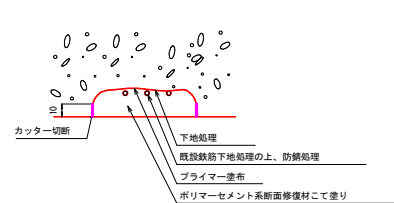
- 1 ひびわれ部のU字カット
- ↓
- 2 清掃
- ↓
- 3 プライマー塗布
- ↓
- (4) バックアップ材挿入
- ↓
- 5 充填材を充填
- ↓
- 6 養 生

※ 注

1. 充填対象となるひびわれは、ひびわれ幅1.0mm以上のもとする。
2. ひび割れに沿って約10mmの幅で、円錐状のダイヤモンドビット等により、U字形にカットする。

断面修復工

(ポリマーセメントモルタル)



※ 施工手順

- 1 カッター切断
- ↓
- 2 コンクリートはつり
- ↓
- 3 下地処理
- ↓
- 4 鉄筋防錆処理
- ↓
- 5 プライマー塗布
- ↓
- 6 断面修復材にて塗り

※ 注

1. 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷をあたえないよう周囲に深さ1cm程度コンクリートカッターにより切断目地を入れ、入念に施工する。(はつり深さは、上部エ5cm、下部エ10cmを想定している。)

2. 使用材料

断面修復材

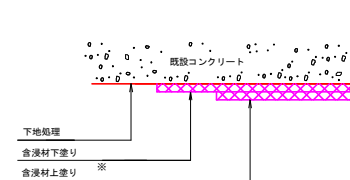
無収縮ポリマーセメントモルタルとし、「表面保護工法 設計施工指針(案) [工法別マニュアル編] 平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足するものとする。

力 学 的 性 能	
要求性能	設計及び施工条件
圧縮強度	躯体コンクリートと同様な強度特性を有すること
	設計基準強度以上
	プレストレストコンクリート 50N/mm ²
	鉄筋コンクリート 24N/mm ²
付着強度	無筋コンクリート 18N/mm ²
	躯体コンクリートと一体となること (1.0N/mm ² 以上)

3. 塗り重ねについては一層あたり30mmを目安とする。

表面含浸工

(シラン系)



※ 施工手順

- 1 下地処理および薄掃工 (コンクリート表面の汚れや、油脂等を除去。施工する面は乾燥面とし、湿潤状態の場合はブロワー等で強制乾燥させる。)
- ↓
- 2 下塗り：含浸材下塗
- ↓
- 3 上塗り：含浸材上塗 (※ 1回目の塗布後、塗膜が完全に乾燥したのを確認して、2回目を塗布。乾燥時間の目安：夏季 約1時間、冬季 約2時間)
- ↓
- 4 養生 (施工後、雨水等がある箇所は、塗膜乾燥前に雨水等が当たらないようにシート等で養生。)

※ 注

1. (社) 土木学会 コンクリートライブラリー表面保護工法 設計施工指針(案) (第5章 施工F38～)に準拠する。

当初設計図面

工 事 名	R8 渡土 西方原海部線 (海部川橋)		
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事		
工事箇所	(一) 西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 補修標準図		
縮 尺	—	図面番号	14 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波港土整備事務所		

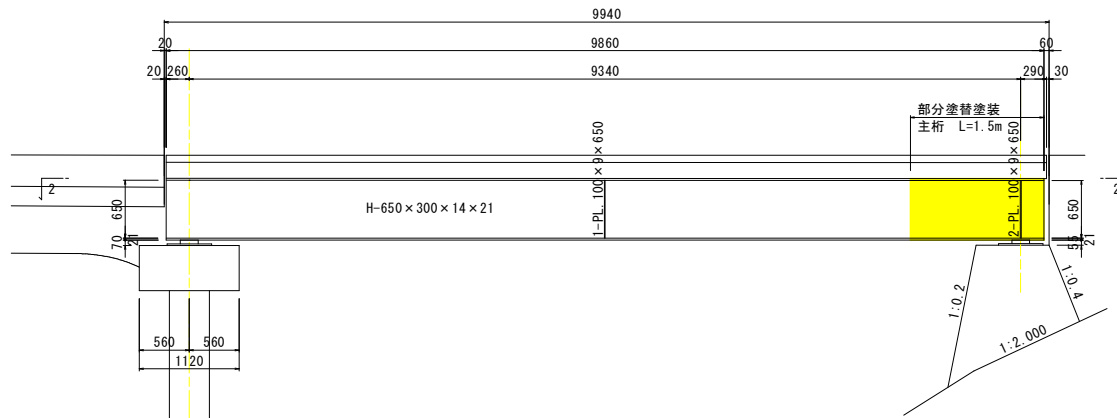
海部川橋 上部工 部分塗替塗装工(1)

S=1:30

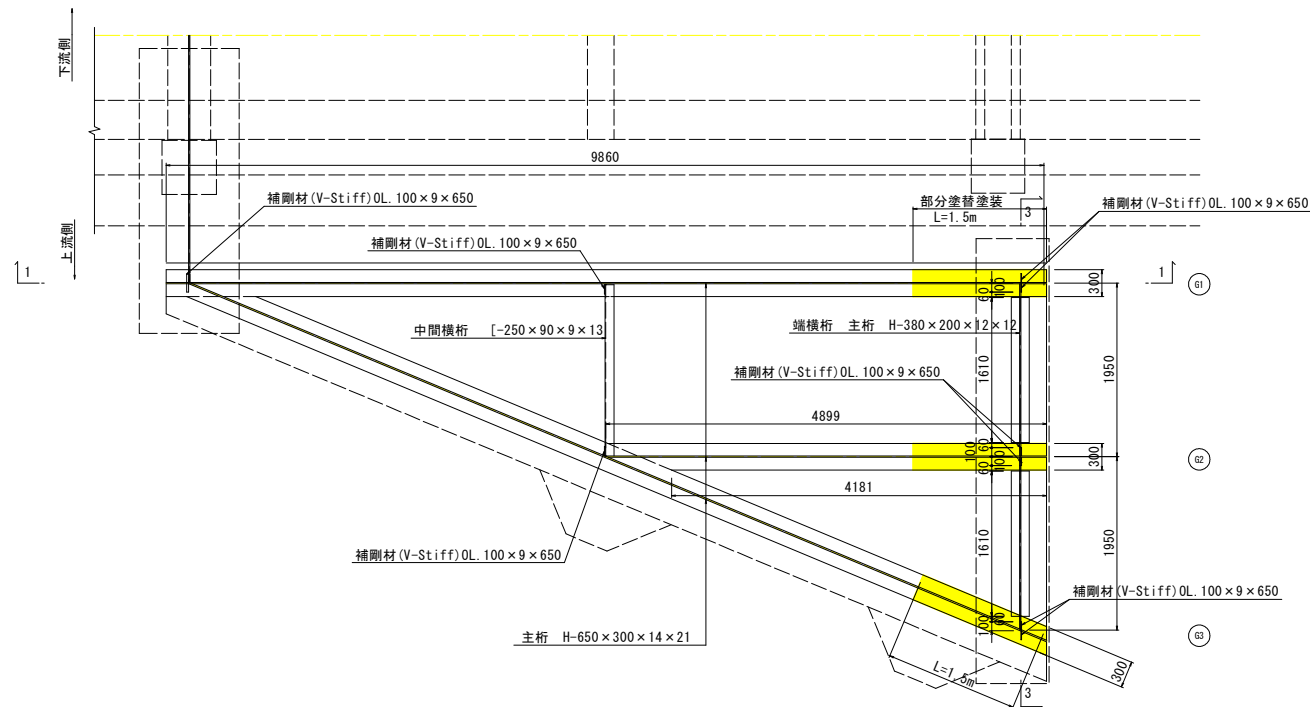
P31～A2径間

補修の種類	図面表示
塗装塗替工	

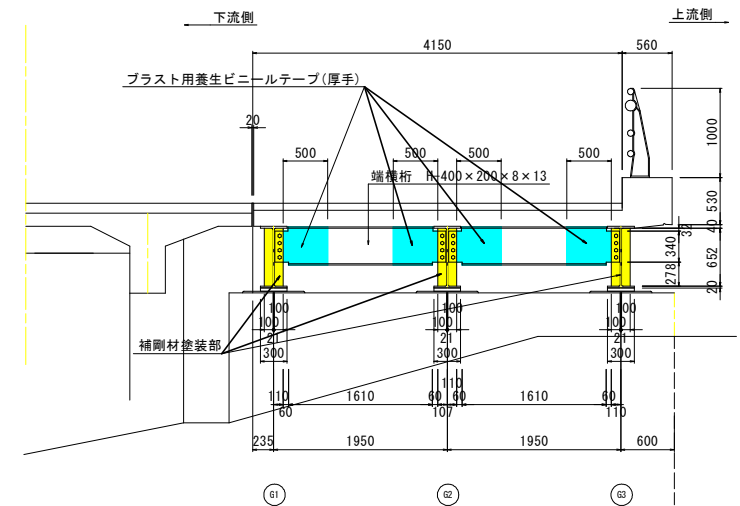
側面図(1-1)



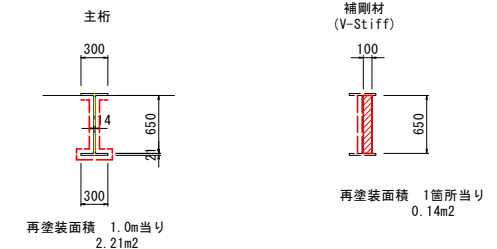
平面図(2-2)



断面図(3-3)



部材形状図



再塗装面積数量表

名称	箇所	算式	数量	備考
主桁	G1	$(0.300 + (0.021 + (0.300 - 0.014) + 0.65) \times 2) \times 1.500$	3.321	H-650 x 300 x 14 x 21
主桁	G2	"	3.321	"
主桁	G3	"	3.321	"
補剛材	V-Stiff	$(0.100 \times 2 + 0.009) \times 0.65 \times 6 \text{箇所}$	0.815	PL 100 x 9 x 650
合計			10.78m ²	
研削材処分運搬			10.78 (m ²) x 40 (kg/m ²) / 1000	0.43t
プラスト用養生ビニールテープ(厚手) (端横桁(H-400 x 200 x 8 x 13)に使用)			$(0.200 + (0.013 + (0.200 - 0.018) + 0.400) \times 2) \times 0.500 \times 4 \text{箇所}$	2.78m ²

当初設計図面

P31～A2径間

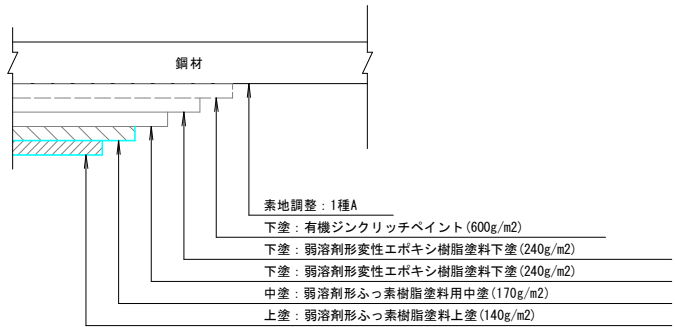
工 事 名	R8 渡土 西方原海部線 (海部川橋)		
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事		
	(一) 西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 上部工 部分塗替塗装工(1)		
縮 尺	1/30	図面番号	15 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波湾土整備事務所		

海部川橋 上部工 部分塗替塗装工(2)

P31～A2径間

塗替塗装工

(Rc-1塗装系：鋼部材)



※ 施工手順

- 1 下地処理：素地調整1種
↓
- 2 下塗り：(1) 有機ジンクリッチペイント (600g/m2)
：(2) 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (240g/m2)
↓
：(3) 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (240g/m2)

※塗替え塗装は、スプレーにより塗布することを基本とする。ただし、作業性の制約条件などに鑑み、事前に十分な検討を行い適切な施工が行えることを確認し、監督員と協議したうえで、刷毛塗やローラー塗りによる施工も行うことができる。

- 3 中塗り：弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗 (170g/m2)
↓
- 4 上塗り：弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用上塗 (140g/m2)
↓
- 5 養生

※ 注

1. 下塗材の標準使用量は、下地の状態により増減する。
2. 使用材料
・下塗材 - 有機ジンクリッチペイント
弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料
・中塗材 - 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料
・上塗材 - 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料
3. (社)日本道路協会鋼道路橋塗装・防食便覧
平成26年度3月版に準拠する。

当初設計図面

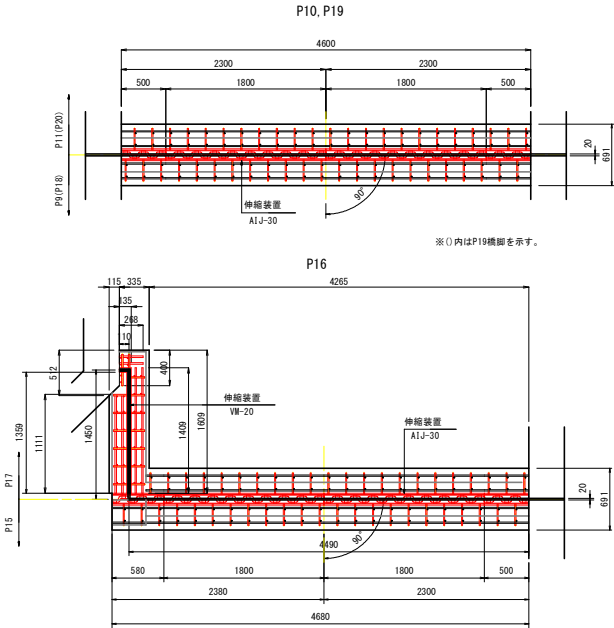
P31～A2径間

工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 上部工 部分塗替塗装工(2)		
縮 尺	1/30	図面番号	16 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波郡土佐橋事務所		

海部川橋 上部工 伸縮装置補修工(1)

平面図

S=1:30

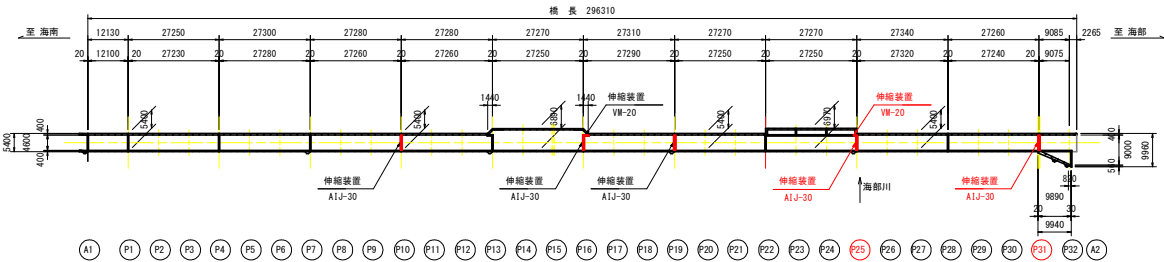


※()内はP19橋脚を示す。

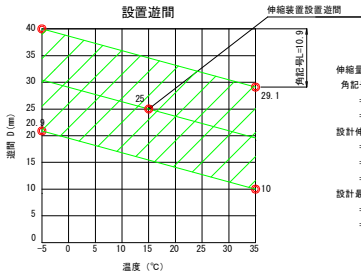
※地覆部と伸縮装置アンカーバーが干渉する部分は、アンカーバーを現地にて切断すること。

位置図

S=1:800



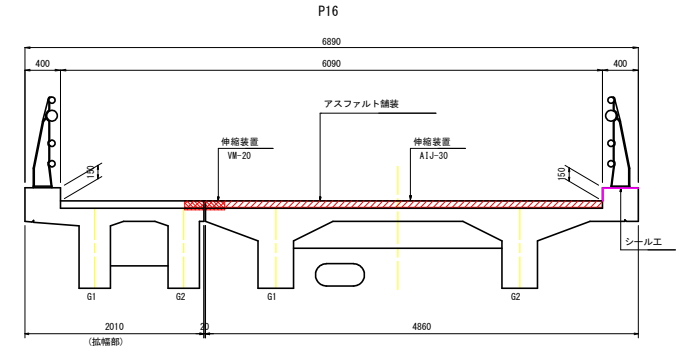
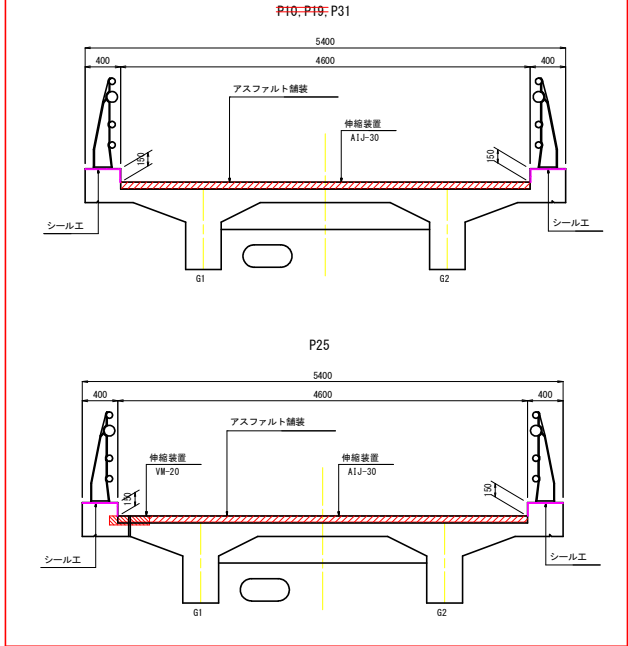
設計条件	
温度範囲	-5℃ ~ +35℃
施工位置	P10 P16 P19 P25 P31
支保条件	Nov-Nov Nov-Nov Nov-Nov Nov-Nov Nov-Nov
設計伸縮量	20.9mm 20.9mm 20.9mm 20.9mm 19.1mm
最大床版遊間	30mm 30mm 30mm 30mm 30mm



伸縮量 (P25橋脚対象)
角記号L = 0.4 × L
= 0.4 × (27.25/2 + 27.32/2)
= 10.9 mm
設計伸縮量
= 伸縮量 (角記号L) + 余裕量
= 10.9 + 10
= 20.9 mm
設計最大床版遊間
= 20 + 20.9/2
= 30.5 mm

断面図

S=1:30



注記) 設置延長等の寸法は現地計測の上、決定すること。

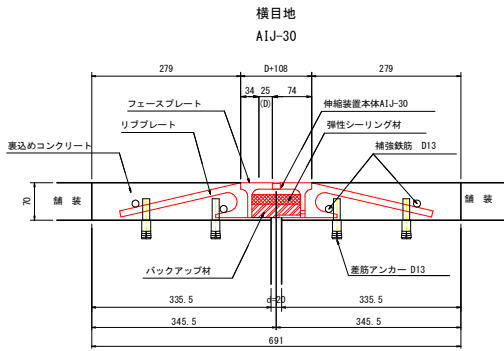
当初設計図面

工事名	R8 渡土 西方原海部線 (海部川橋)
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)
図面名	海部川橋 上部工 伸縮装置補修工 (1)
縮尺	図示 図面番号 17 / 35
会社名	
事務所名	徳島県土木建設事務所

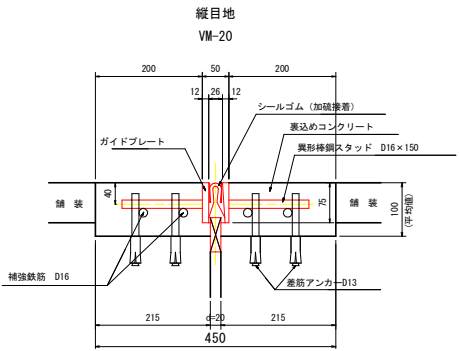
海部川橋 上部工 伸縮装置補修工(2)

伸縮装置補修断面図

S=1:5

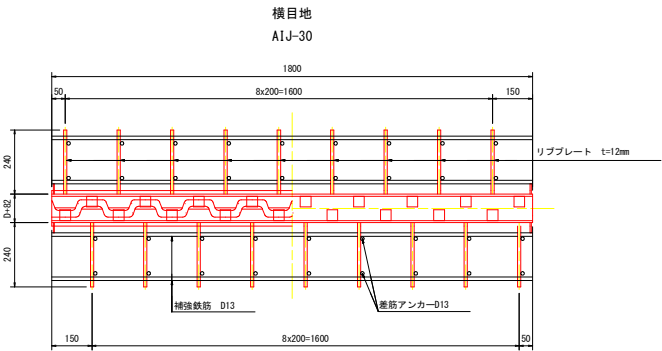


※Dは、標準偏差25mmとしている。



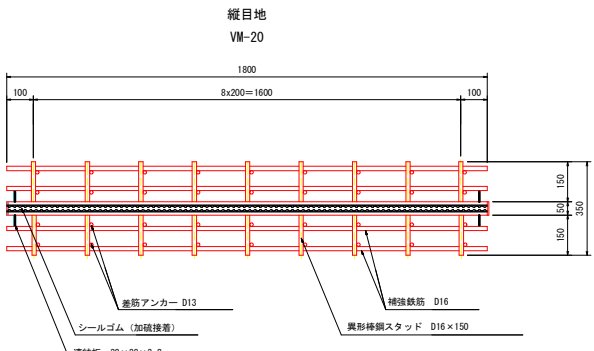
伸縮装置平面図

S=1:10



寸法表 (mm)			
型 式	許容伸縮量	フィンガー間隔 D	ウェブ間隔 D + 66
AIJ - 30	30	10 ~ 40	76 ~ 106

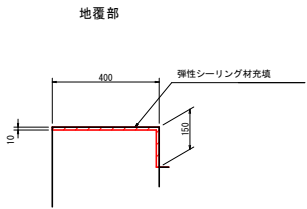
※ 設置間隔は施工時の温度を考慮して決定すること。



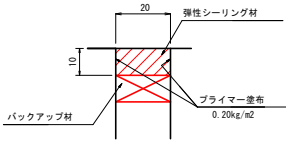
寸法表 (mm)			
型 式	セット幅	鉛直移動距離	平行移動距離
VM-20	50	20	15

シール工詳細図

S=1:10



シール材充填図



当初設計図面

工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 上部工 伸縮装置補修工 (2)		
縮 尺	図示	図面番号	18 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波郡土佐橋事務所		

海部川橋 上部工 伸縮装置補修工(3)

伸縮装置取替数量表

伸縮装置取替数量表

数 量 表												
番号	名称	規格・材質	単位	P10	P16		P19	P25		P31	合計	備 考
					縦目地	横目地		縦目地	横目地			
1	車道用伸縮装置	AIJ-30	m	4.60	4.60	-	4.60	4.60	-	4.60	9.20	
		VM-20	m	-	-	1.89	-	-	0.93	-	0.93	
2	表込めコンクリート	超連硬コンクリート(σ3h=24N/mm2)	m3	0.18	0.17	0.06	0.18	0.17	0.03	0.18	0.38	
3	補強鉄筋	D13 SD345	kg	18	18	-	18	18	-	18	36	L x 4 x 0.995kg/m
		D16 SD345	kg	-	-	-	-	-	5	-	5	L x 4 x 1.56kg/m
4	差筋アンカー	D13	本	92	90	32	92	88	18	92	198	
5	シーリング材	シリコーン系	リットル	0.22	0.11	-	0.22	0.22		0.22	0.44	P10: 19.25.31 (0.400+0.159)x2x0.02x0.01x1000 P16: (0.400+0.159)x0.02x0.01x1000

伸縮装置取替数量表

数 量 表												
番号	名称	規格・材質	単位	P10	P16		P19	P25		P31	合計	備 考
					横目地	縦目地		横目地	縦目地			
1	車道用伸縮装置	AIJ-30	m	1			4	5	6	7		
		VM-20	m	6	9	10	11	12	13	14		
2	表込めコンクリート	超連硬コンクリート (σ3h=24N/m2)	m3	18	16	17	18	19	20	21		
3	補強鉄筋	D13 SD345	kg	22	23	24	25	26	27	28		L x 4 x 0.995kg/m
		D16 SD345	kg	29	30	31	32	33	34	35		L x 4 x 1.56kg/m
4	差筋アンカー	D13	本	26	37	38	39	40	41	42		
5	シーリング材	シリコーン系	リットル	43	44	45	46	46		47		

計算式

1	:	AIJ-30	4.60m
2	:	AIJ-30	4.68m
3	:	-	
4	:	AIJ-30	4.60m
5	:	AIJ-30	4.60m
6	:	-	
7	:	AIJ-30	4.60m
8	:	-	
9	:	-	
10	:	VM-20	1.359+0.135=1.49m
11	:	-	
12	:	-	
13	:	VM-20	0.93m
14	:	-	
15	:	0.279x0.07x2x4.60	
16	:	0.279x0.07x4.68+0.279x0.07x4.265	
17	:	0.20x0.10x2x1.61-(0.400+0.512)x0.115x0.10x1/2	
18	:	0.279x0.07x2x4.60	
19	:	0.279x0.07x(4.60+4.245)	
20	:	0.934x0.2x0.1x2-0.095x0.443x0.1	
21	:	0.279x4.6x2x0.07+(0.027+0.159)x1/2x0.279x0.07	
22	:	4.60x4x0.995	
23	:	(4.68x2+4.265x2)x0.995	
24	:	-	
25	:	4.60x4x0.995	
26	:	(4.60x2+4.28x2)x0.995	
27	:	-	
28	:	(4.60x2+4.72+4.64)x0.995	
29	:	-	
30	:	-	
31	:	(1.11x2+1.41x2+0.27x2)x1.56	
32	:	-	
33	:	-	
34	:	0.93x4x1.56+0.437	
35	:	-	
36	:	CAD図より	
37	:	CAD図より	
38	:	CAD図より	
39	:	CAD図より	
40	:	CAD図より	
41	:	CAD図より	
42	:	CAD図より	
43	:	(0.400+0.150)x2x0.02x0.01x1000	
44	:	(0.400+0.150)x0.02x0.01x1000	
45	:	(0.400+0.150)x2x0.02x0.01x1000	
46	:	(0.400+0.150)x2x0.02x0.01x1000	
47	:	(0.400+0.150)x2x0.02x0.01x1000	

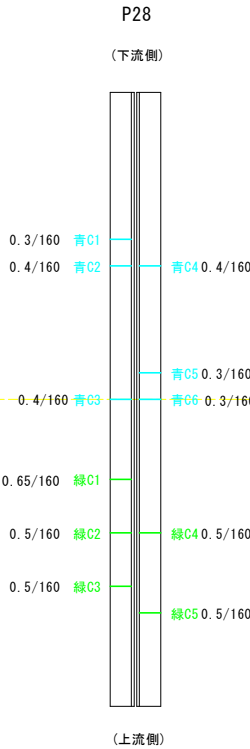
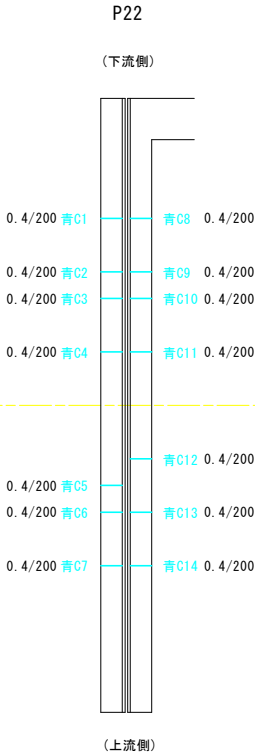
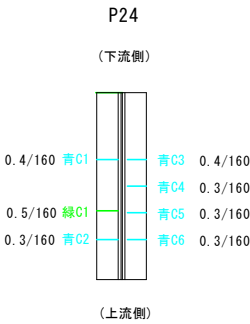
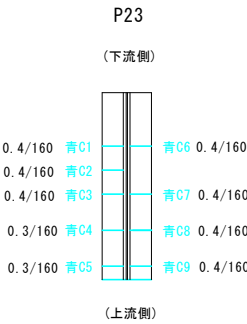
当初設計図面

工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 上部工 伸縮装置補修工(3)		
縮 尺	図示	図面番号	19 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波郡土豊橋事務所		

海部川橋 上部工 既設伸縮装置 後打ち材補修工

S=1 : 20

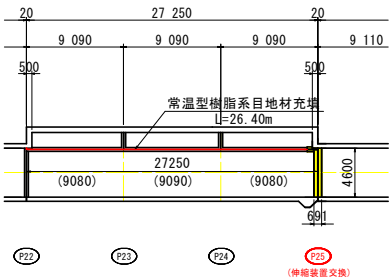
凡 例	
補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	 幅(mm)・長さ(m)
" (幅0.5～1.0未満)	 幅(mm)・長さ(m)
" (幅1.0以上)	 幅(mm)・長さ(m)



既設伸縮装置 後打ち材ひびわれ補修工(樹脂系充填材注入) 数量一覧表

測点	ひびわれ番号	本数	ひびわれ幅(W)	算 式	数量(m)
A1	赤C1～赤C30	30本	1.1mm	0.16*30	4.80
P1	赤C1	36本	0.5～1.5mm	0.16*36	5.76
P4	緑C1～緑C28	28本	0.7～0.9mm	0.16*28	4.48
P7	赤C1～赤C2	31本	0.5～1.5mm	0.16*31	4.96
P13	赤C1～赤C30	30本	1.0～1.2mm	0.20*1.0.16*29	4.84
P22	青C1～青C14	14本	0.4mm	0.20*14	2.80
P23	青C1～青C9	9本	0.3～0.4mm	0.16*9	1.44
P24	緑C1	7本	0.3～0.5mm	0.16*7	1.12
P28	緑C1～緑C5	11本	0.3～0.65mm	0.16*11	1.76
合 計					7.12

既設伸縮縦目地補修工 S=1:250



既設伸縮縦目地補修工 数量一覧表

既設伸縮縦目地補修工延長	1.55m(P13) 26.40m (P22～P25)	26.40m
既設目地材撤去・表面処理 (清掃)	26.40×0.02	0.53㎡
常温型樹脂系目地材充填 (ソフトカートリッジ使用)	26.40×0.02	0.53㎡
同上プライマー塗布	0.53×0.10×1.04	0.06kg
充填材 (樹脂系目地材 イソシールAC同等品以上)	26.40×0.02×0.02×1000×1.2	12.67kg

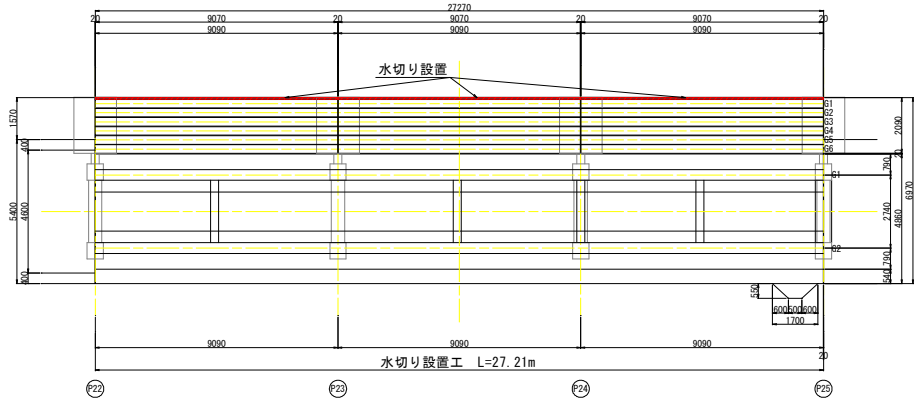
当初設計図面

工 事 名	R8 渡土 四方原海部線 (海部川橋)		
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事		
	(一) 四方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋上部工既設伸縮装置後打ち材補修工		
縮 尺	図示	図面番号	20 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波渡土整備事務所		

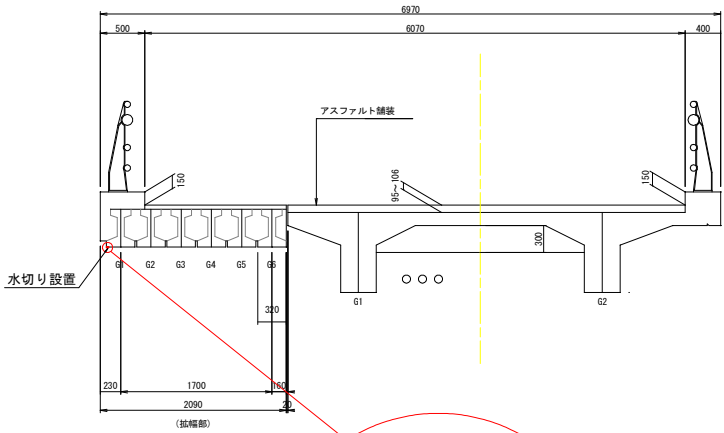
海部川橋 上部工 付帯工

水切り設置工
P22-P25径間

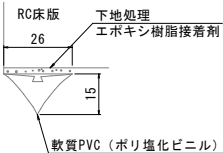
平面図 S=1:100



標準断面図 S=1:30



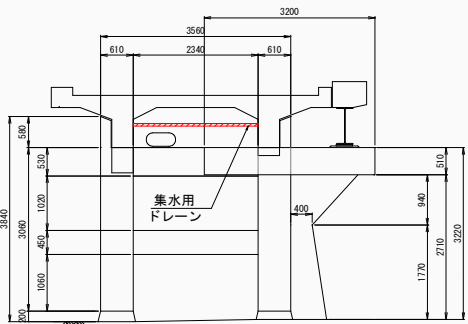
詳細図 S=1:1



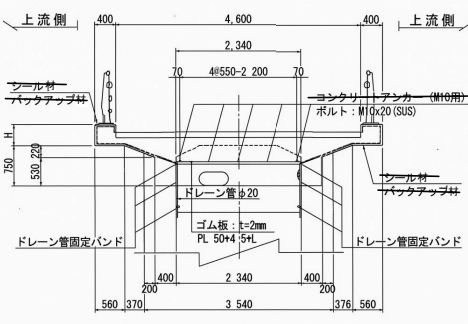
工種	数量	摘要
水切り設置	L=27.21m	(水切りアイドリッブ同等品以上)
表面清掃	A=0.03×27.21=0.82㎡	
接着剤塗布	A=0.03×27.21=0.82㎡	(エポキシ樹脂接着剤)

既設排水装置撤去工
P31橋脚

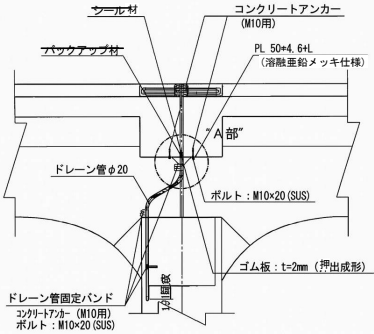
正面図 S=1:50



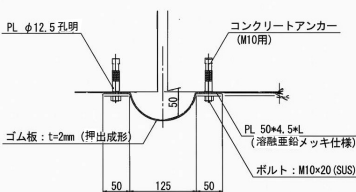
正面図 S=1:50



排水要領詳細図 S=1:20



A部詳細図 S=1:5



既設排水装置撤去工 数量表

名称	規格	算式	単位	数量
PL (50×4.5×2340)	溶融亜鉛メッキ仕様	$0.05 \times 0.0045 \times 2.34 \times 2 \times 7.85 (t/m)$	t	0.008
ゴム板	t=2mm, w=260mm	$0.26 \times 0.002 \times 2.34 \times 1.30 (t/m)$	t	0.002
ボルト	M10×20, SUS	10本	t	0.001
ドレーン管	金属製可とう電線管φ20mm	$2.60m/箇所 \times 0.00033 (t/m)$	t	0.001
ドレーン管固定バンド	PL-50×3×126	$0.89kg/箇所/1000$	t	0.001

当初設計図面

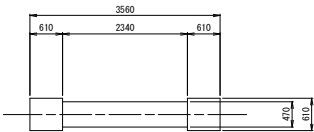
工事名	R8渡土 西方原海部線 (海部川橋)
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事
工事箇所	(一) 西方原海部線
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)
図面名	海部川橋 上部工 付帯工
縮尺	図示 図面番号 21 / 35
会社名	
事務所名	徳島県美波郡土佐橋事務所

海部川橋 下部工補修図(その1)

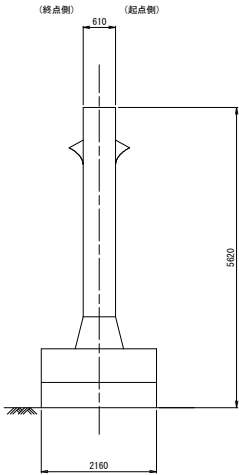
S=1:50

P20橋脚

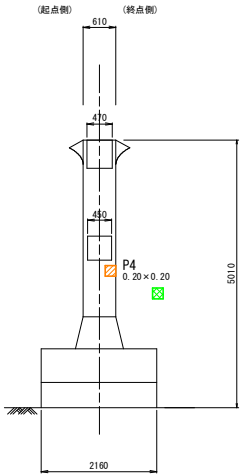
平面図(橋座)



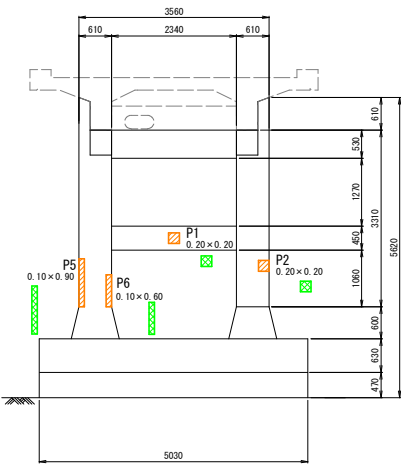
側面図(下流側)



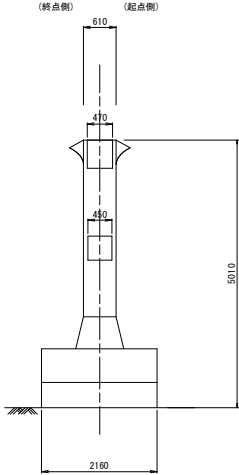
(柱内側)



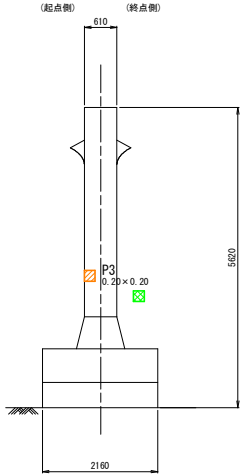
正面図(起点側)



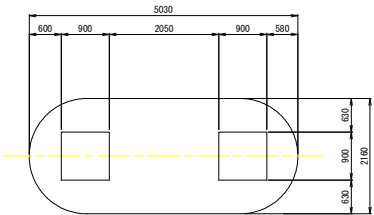
(柱内側)



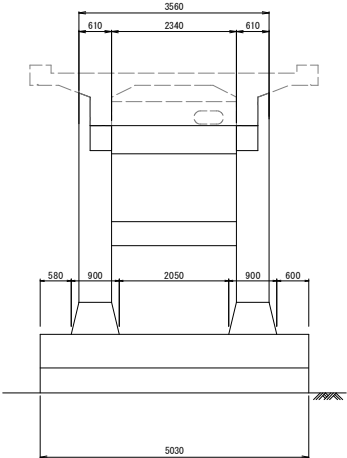
側面図(上流側)



平面図(基礎)



正面図(終点側)



凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(㎜)・長さ(㎜)
〃 (幅0.5～1.0未満)	幅(㎜)・長さ(㎜)
ひびわれ充填工	幅(㎜)・長さ(㎜)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	○

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを鉋る際には、健全部に損傷を与えないことのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは鉋り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

P20橋脚

既設被覆材除去

測点	寸法(m)	面積(m2)
P1	0.20 × 0.20	0.040
P2	0.20 × 0.20	0.040
P3	0.20 × 0.20	0.040
P4	0.20 × 0.20	0.040
P5	0.10 × 0.90	0.090
P6	0.10 × 0.60	0.060
合計		0.310 m2

表面含浸工

合計 0.31m2

※断面修復(既設被覆材除去)施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
(過年度表面保護塗装施工箇所のみ)

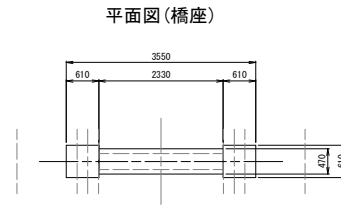
当初設計図面

工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線 (海部川橋)
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その1)
縮 尺	1/50
図面番号	22 / 35
会 社 名	
事務所名	徳島県美波郡土佐橋事務所

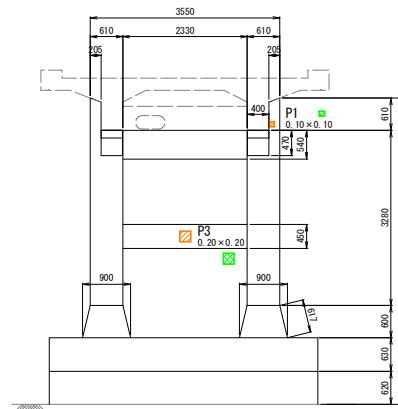
P20橋脚

S=1 : 50

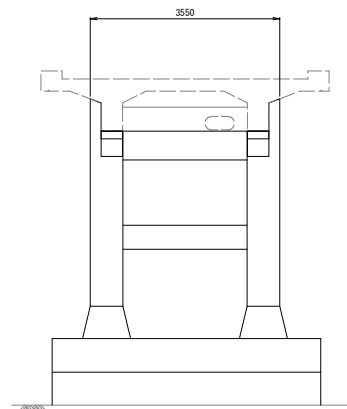
P21橋脚



正面図(起点側)



正面図(終点側)



P21橋脚

既設被覆材除去

測点	寸法(m)	面積(m ²)
P1	0.10 × 0.10	0.010
P2	0.15 × 0.30	0.045
P3	0.20 × 0.20	0.040
合計		0.095 m

表面含浸工

合計 0.10m2

※断面修復（既設被覆材除去）施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

1. 施工にあたっては現場計画を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等に応じて再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅でU型鉄釘のダイヤモンドドリット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研除の際には、健全部と形状を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、急急に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とす防錆処理を施した後、補修復材にて復旧するものとする。

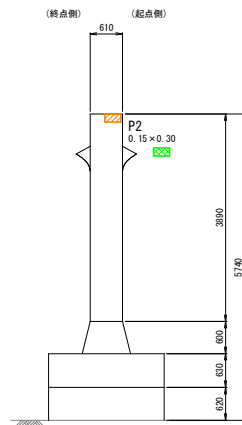
凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	 幅 50mm～長さ 50
〃 (幅0.5～1.0未満)	 幅 50mm～長さ 50
ひびわれ充填工	 幅 50mm～長さ 50
既設被覆材除去	
断面修理工	
表面含浸工	

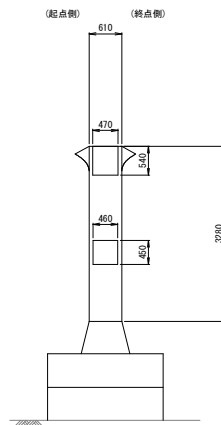
表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	○

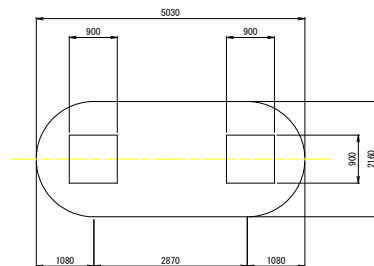
側面図(下流側)



(柱内側)



平面図(基礎)



当初設計図面

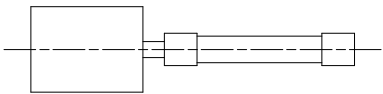
工 事 名	R 8 波 土 四 方 原 海 部 線 (海 部 川 橋) 海 ・ 大 里 他 橋 交 替 補 工 事		
路 線 名 等	(一) 四 方 原 海 部 線		
工 事 箇 所	海 部 都 海 瑞 町 大 里 他 (海 部 川 橋)		
図 面 名	海 部 川 橋 下 部 工 補 修 図 (其 の 2)		
縮 尺	1 / 50	図 面 番 号	23 / 35
会 社 名			
事 務 所 名	徳 島 県 美 波 波 土 登 橋 事 務 所		

海部川橋 下部工補修図(その3)

S=1:50

P22橋脚

平面図(橋座)



凡 例

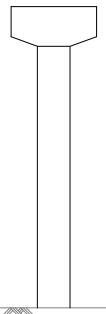
補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	
〃 (幅0.5~1.0未満)	
ひびわれ充填工	
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	○

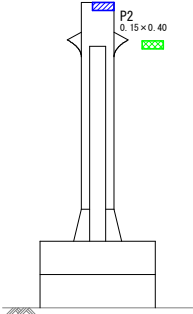
側面図(下流側)

(終点側) (起点側)



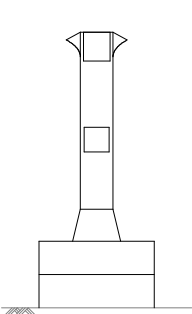
(柱外側)

(終点側) (起点側)

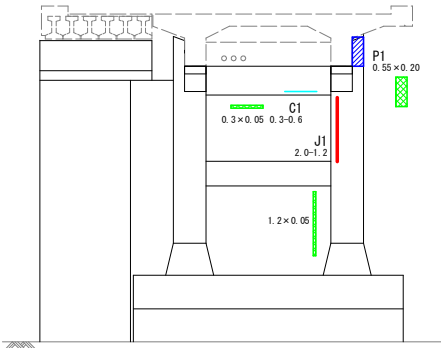


(柱内側)

(起点側) (終点側)

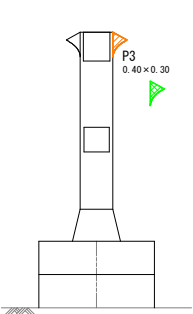


正面図(起点側)



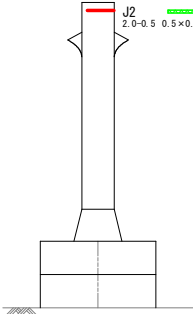
(柱内側)

(終点側) (起点側)

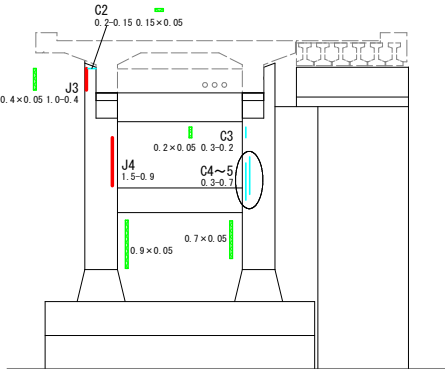


側面図(上流側)

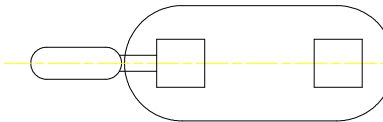
(起点側) (終点側)



正面図(終点側)



平面図(基礎)



P22橋脚

ひびわれ注入工

幅0.2~1.0未満	数量
C1	0.60
C2	0.15
C3	0.20
C4	0.70
C5	0.70
計	2.35 m

表面含浸工

合計 0.12m2

ひびわれ充填工

幅1.0以上	数量
J1	1.20
J2	0.50
J3	0.40
J4	0.90
計	3.00 m

表面含浸工

合計 0.15m2

既設被覆材除去

測点	寸法(m)	面積(m2)
P3	0.40 x 0.30	0.120
合計		0.120 m2

断面修復工

測点	寸法(m)	面積(m2)
P1	0.55 x 0.20	0.110
P2	0.15 x 0.40	0.060
合計		0.170 m2

表面含浸工

合計 0.22m2

※断面修復(既設被覆材除去)施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
(過年度表面保護塗装施工箇所のみ)

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深处まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザースエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線(海部川橋)
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事 (一) 西方原海部線
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その3)
縮 尺	1/50 図面番号 24 / 35
会 社 名	
事務所名	徳島県美波渡土整備事務所

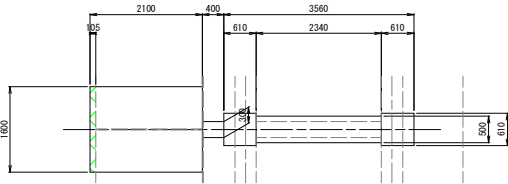
P22橋脚

海部川橋 下部工補修図(その4)

S=1:50

P23橋脚

平面図(橋座)



凡 例

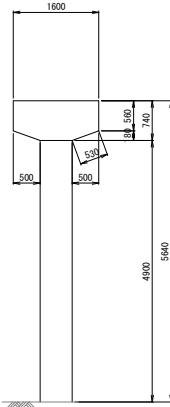
補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	
〃 (幅0.5～1.0未満)	
ひびわれ充填工	
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	○

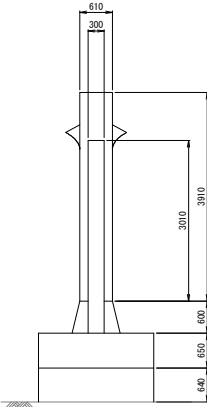
側面図(下流側)

(起点側) (終点側)



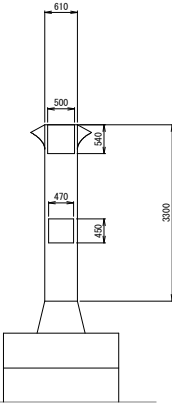
(柱外側)

(終点側) (起点側)

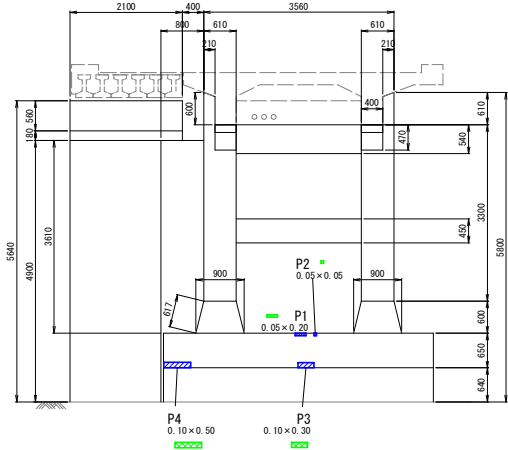


(柱内側)

(起点側) (終点側)

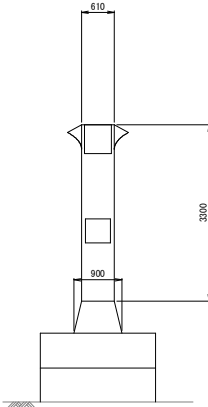


正面図(起点側)



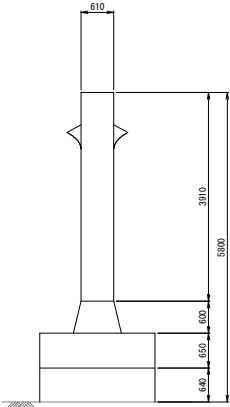
(柱内側)

(終点側) (起点側)

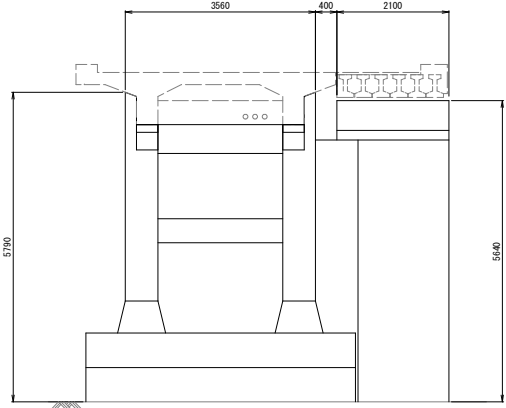


側面図(上流側)

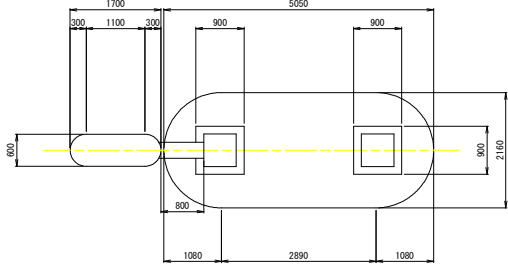
(起点側) (終点側)



正面図(終点側)



平面図(基礎)



P23橋脚

断面修復工

測点	寸法(m)	面積(m2)
P1	0.05 x 0.20	0.010
P2	0.05 x 0.05	0.003
P3	0.10 x 0.30	0.030
P4	0.10 x 0.50	0.050
合計		0.093 m2

表面含浸工

合計 0.09m2

※断面修復(既設被覆材除去)施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
(過年度表面保護塗装施工箇所のみ)

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断路目を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線 (海部川橋)
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その4)
縮 尺	1/50 図面番号 25 / 35
会 社 名	
事務所名	徳島県美波渡土整備事務所

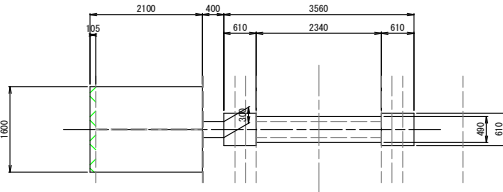
P23橋脚

海部川橋 下部工補修図(その5)

S=1:50

P24橋脚

平面図(橋座)



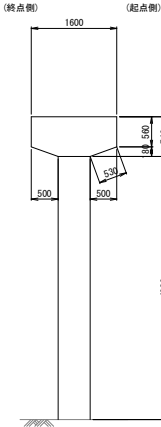
凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	
〃 (幅0.5～1.0未満)	
ひびわれ充填工	
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

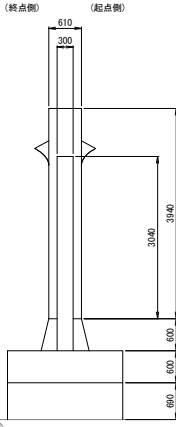
表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	○

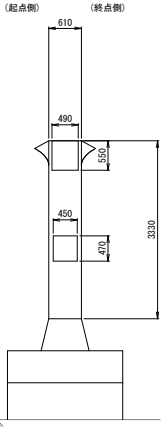
側面図(下流側)



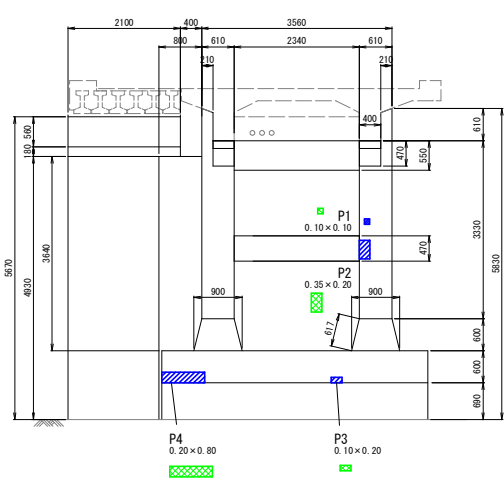
(柱外側)



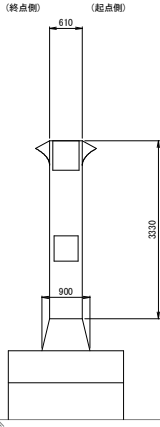
(柱内側)



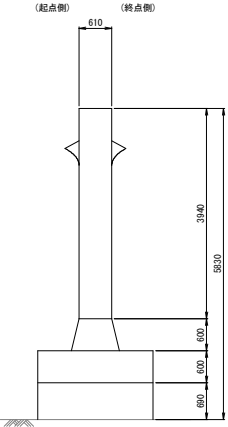
正面図(起点側)



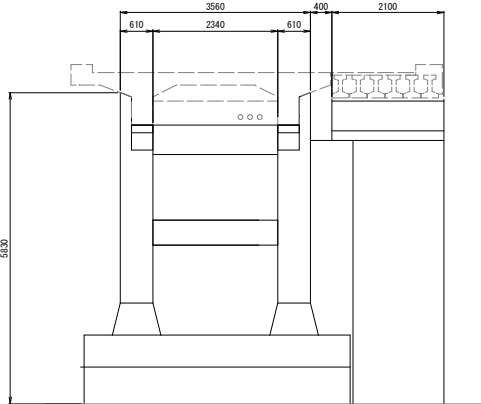
(柱内側)



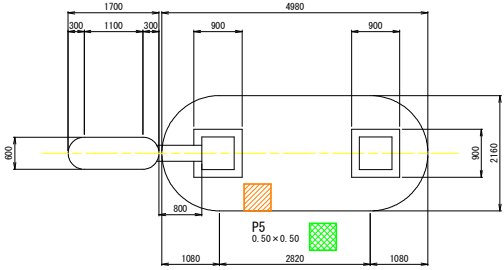
側面図(上流側)



正面図(終点側)



平面図(基礎)



P24橋脚

断面修復工

測点	寸法 (m)	面積 (㎡)
P1	0.10 × 0.10	0.010
P2	0.35 × 0.20	0.070
P3	0.10 × 0.20	0.020
P4	0.20 × 0.80	0.160
合計		0.260 ㎡

既設被覆材除去

測点	寸法 (m)	面積 (㎡)
P5	0.50 × 0.50	0.250
合計		0.250 ㎡

表面含浸工

合計 0.51㎡

※断面修復 (既設被覆材除去)
施工箇所の同上に表面含浸工
を施工。(過年度表面保護
塗装施工箇所のみ)

当初設計図面

工 事 名	R 8 土 土 西方原海部線 (海部川橋)
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その5)
縮 尺	1/50 図面番号 26 / 35
会 社 名	
事務所名	徳島県美波郡土佐橋事務所

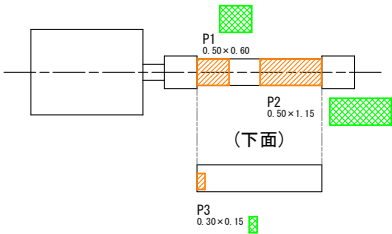
P24橋脚

海部川橋 下部工補修図(その6)

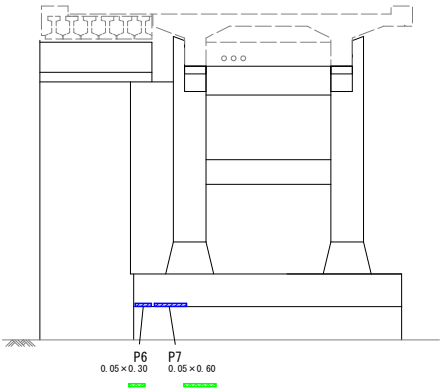
S=1:50

P25橋脚

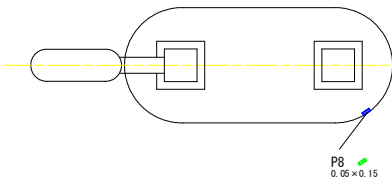
平面図(橋座)



正面図(起点側)



平面図(基礎)



凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(m)-長さ(m)
〃 (幅0.5~1.0未満)	幅(m)-長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(m)-長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	○

側面図(下流側)

(終点側)

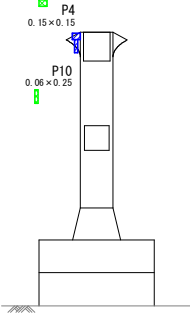
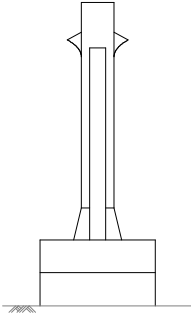
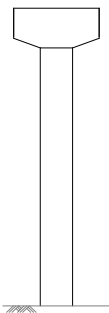
(柱外側)

(起点側)

(柱内側)

(起点側)

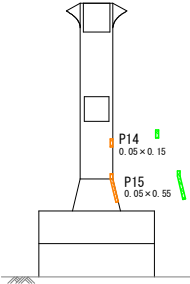
(終点側)



(柱内側)

(終点側)

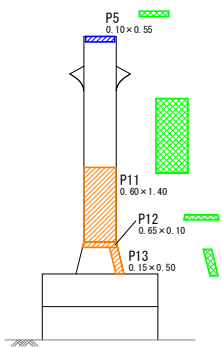
(起点側)



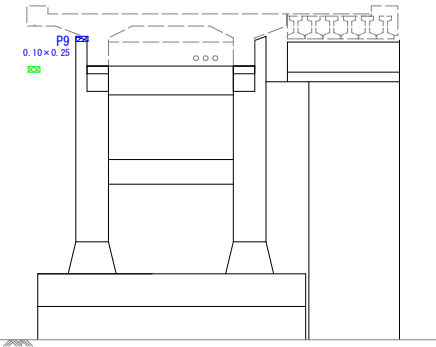
側面図(上流側)

(起点側)

(終点側)



正面図(終点側)



P25橋脚

断面修復工

測点	寸法(m)	面積(m2)
P4	0.15 × 0.15	0.023
P5	0.10 × 0.55	0.055
P6	0.05 × 0.30	0.015
P7	0.05 × 0.60	0.030
P8	0.05 × 0.15	0.008
P9	0.10 × 0.25	0.025
P10	0.05 × 0.25	0.015
合計		0.171 m2

既設被覆材除去

測点	寸法(m)	面積(m2)
P1	0.50 × 0.60	0.300
P2	0.50 × 1.15	0.575
P3	0.30 × 0.15	0.045
P11	0.60 × 1.40	0.840
P12	0.65 × 0.10	0.065
P13	0.15 × 0.50	0.075
P14	0.05 × 0.15	0.008
P15	0.05 × 0.55	0.028
合計		1.936 m2

表面含浸工 ※断面修復(既設被覆材除去)施工
箇所の上に表面含浸工を施工。
(過年度表面保護塗装施工箇所のみ)

- 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
- 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
- ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深处まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
- ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
- 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
- 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェーザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
- 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線 (海部川橋)
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事 (一) 西方原海部線
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その6)
縮 尺	1/50 図面番号 27 / 35
会 社 名	
事務所名	徳島県美波港土整備事務所

P25橋脚

S=1 : 50

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注工 (幅 0.5未満)	
〃 (幅 0.5～1.0未満)	
ひびわれ充填工	
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

表面被覆工(表面保護塗裝)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	○

Technical drawing of a mechanical part showing dimensions: 3560, 610, 2340, 500, and 610.

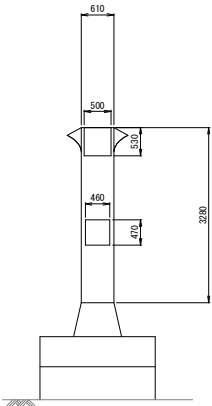
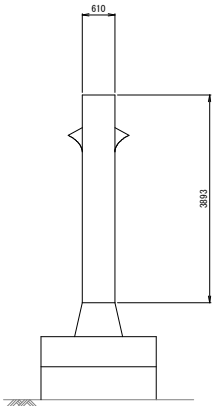
[illegible]

(終点側) (起点側)

(起点側) (終点側)

(終点側) (起点側)

(起点側) (終点側)



Technical drawing of a vertical structure, likely a chimney or stack, showing dimensions and labels. The drawing includes a top view and a side view. The top view shows a square base with a width of 3500. The side view shows a vertical structure with a height of 5713. The structure has a central opening with a diameter of 0.7-0.2 and a thickness of 0.2 x 0.05. The label C1 is also present.

Technical drawing of a rectangular plate with rounded ends and two square holes. The overall dimensions are 5020 mm by 7160 mm. The top edge has segments of 600, 900, 2050, 900, and 570 mm. The right edge has segments of 630, 900, and 630 mm. The bottom edge has segments of 2860 and 1080 mm. Two square holes are located symmetrically, each measuring 200 mm x 200 mm. A dashed centerline runs horizontally through the middle. A label 'P3' with a green box containing 'B' and '0.20 x 0.10' is positioned near the bottom left corner.

P26橋脚

ひびわれ注入工

幅0.2～1.0未満	
測点	数量
C1	0.20
計	0.20 m

表面含浸工

合計 0.01m²

断面修復工

測点	寸法(m)	面積(m2)
P1	0.10 × 0.10	0.010
P2	0.05 × 0.05	0.003
合計		0.013 m2

既設被覆材除去

測点	寸法(m)	面積(m2)
P3	0.20 × 0.10	0.020
合計		0.020 m2

表面含浸工

合計 0.03m²

※断面修復（既設被覆材除去）施工
箇所の上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

1. 施工にあたっては、現地点検を行い、施工面および施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、土砂等について再度点検を実施し施工を行うこと。
3. ひびわれ注入工事の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深处まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工事の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットすること。
5. 安化・不良コンクリートを研る際には、健全部に傷損を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、急急に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは取り除くを行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、ウッター目地により既設部との接合面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とす防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとす。

当初設計図面

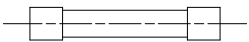
工 事 名	R 8 波 土 四方原海部線（海部川橋）		
路線名等	海・大里地 橋梁修繕工事		
工事箇所	海部郡海部町大里地（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 下部工補修図（その7）		
縮 尺	1/50	図面番号	28 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波市土豊橋事務所		

海部川橋 下部工補修図(その8)

S=1:50

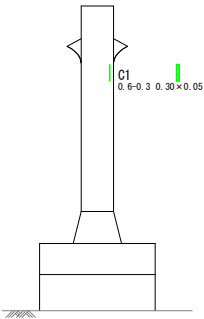
P27橋脚

平面図(橋座)



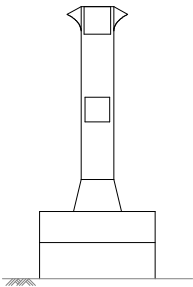
側面図(下流側)

(終点側) (起点側)

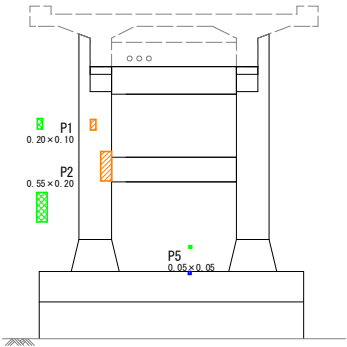


(柱内側)

(起点側) (終点側)

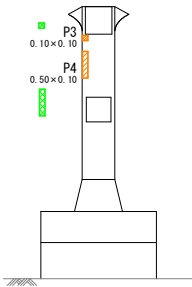


正面図(起点側)



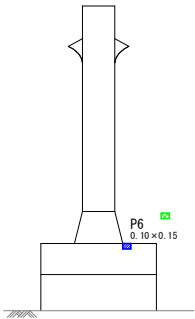
(柱内側)

(終点側) (起点側)

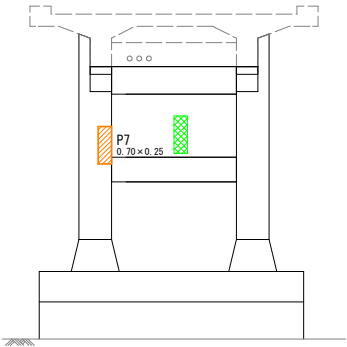


側面図(上流側)

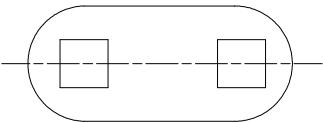
(起点側) (終点側)



正面図(終点側)



平面図(基礎)



凡 例	
補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	幅(m)-長さ(m)
" (幅0.5~1.0未満)	幅(m)-長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(m)-長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

表面被覆工(表面保護塗装) 過年度施工 有無	
橋脚柱	フーチング基礎
○	○

P27橋脚

ひびわれ注入工

幅0.2~1.0未満	
測点	数量
C1	0.30
計	0.30 m

表面含浸工

合計 0.02m2

既設被覆材除去

測点	寸法(m)		面積(m2)
P1	0.20	× 0.10	0.020
P2	0.55	× 0.20	0.110
P3	0.10	× 0.10	0.010
P4	0.50	× 0.10	0.050
P7	0.70	× 0.25	0.175
合計			0.365 m2

断面修復工

測点	寸法(m)		面積(m2)
P5	0.05	× 0.05	0.003
P6	0.10	× 0.15	0.015
合計			0.018 m2

表面含浸工

合計 0.39m2

※断面修復(既設被覆材除去) 施工箇所の上に表面含浸工を施工。
(過年度表面保護塗装施工箇所のみ)

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深处まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザージョイントにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

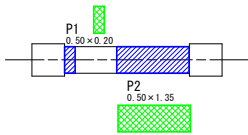
工 事 名		P27橋脚	
R 8 渡土 西方原海部線 (海部川橋)		海・大里他 橋梁修繕工事	
路線名等		(一) 西方原海部線	
工事箇所		海部郡海陽町大里他 (海部川橋)	
図 面 名		海部川橋 下部工補修図(その8)	
縮 尺		1/50	図面番号 29 / 35
会 社 名			
事務所名		徳島県美波郡土佐橋事務所	

海部川橋 下部工補修図(その9)

S=1:50

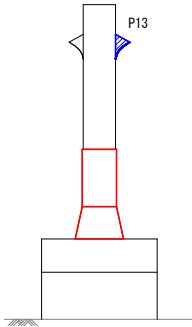
P28橋脚

平面図(橋座)



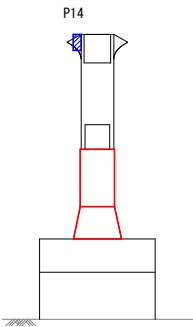
側面図(下流側)

(終点側) (起点側)

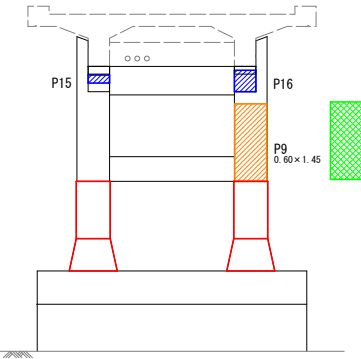


(柱内側)

(起点側) (終点側)

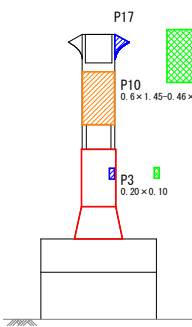


正面図(起点側)



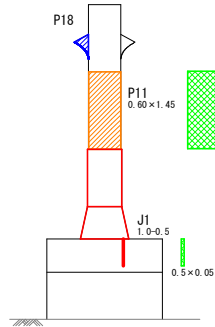
(柱内側)

(終点側) (起点側)

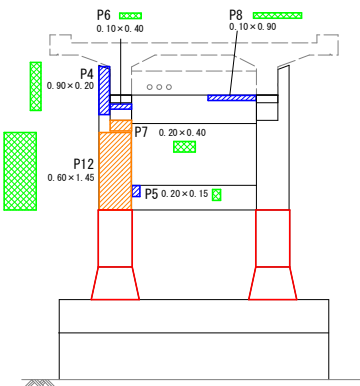


側面図(上流側)

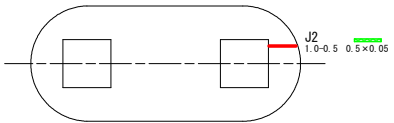
(起点側) (終点側)



正面図(終点側)



平面図(基礎)



表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	○

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	
〃 (幅0.5~1.0未満)	
ひびわれ充填工	
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

別途計上
表面被覆工(復旧工)



P28橋脚

断面修復工

測点	寸法(m)	面積(m2)
P1	0.50 x 0.20	0.100
P2	0.50 x 1.35	0.675
P3	0.20 x 0.10	0.020
P4	0.90 x 0.20	0.180
P5	0.20 x 0.15	0.030
P6	0.10 x 0.40	0.040
P8	0.10 x 0.90	0.090
合計		1.135 m2

既設被覆材除去

測点	寸法(m)	面積(m2)
P7	0.20 x 0.40	0.080
P9	0.60 x 1.45	0.870
P10	0.6 x 1.45-0.46 x 0.46	0.658
P11	0.60 x 1.45	0.870
P12	0.60 x 1.45	0.870
合計		3.348 m2

表面含浸工

合計 4.48m2

飾りコンクリート復旧工

測点	数量
P13	飾りコンクリート(下流側) 別途計上
P14	
P15	
P16	飾りコンクリート(上流側) 別途計上
P17	
P18	

ひびわれ充填工

測点	数量
幅1.0以上	
J1	0.50
J2	0.50
計	1.00 m

表面含浸工

合計 0.05m2

※断面修復(既設被覆材除去)施工箇所の同上に表面含浸工を施工。
(過年度表面保護塗装施工箇所のみ)

当初設計図面

工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線 (海部川橋)
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事 (一) 西方原海部線
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その9)
縮 尺	1/50 図面番号 30 / 35
会 社 名	
事務所名	徳島県美波渡土整備事務所

P28橋脚

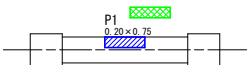
1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切筋目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

海部川橋 下部工補修図(その10)

S=1:50

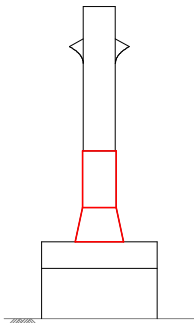
P29橋脚

平面図(橋座)



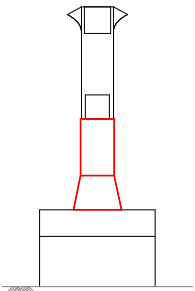
側面図(下流側)

(終点側) (起点側)

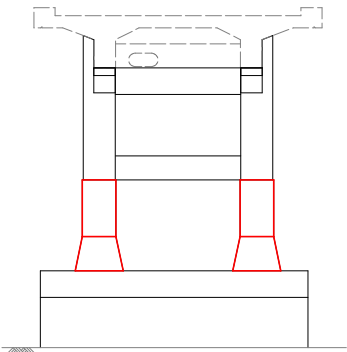


(柱内側)

(起点側) (終点側)

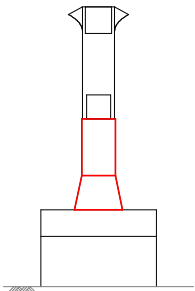


正面図(起点側)



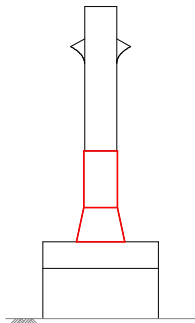
(柱内側)

(終点側) (起点側)

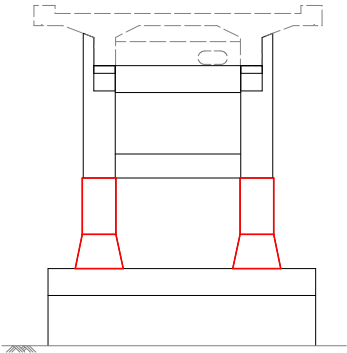


側面図(上流側)

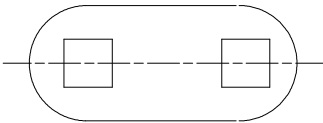
(起点側) (終点側)



正面図(終点側)



平面図(基礎)



- 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
- 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
- ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
- ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
- 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
- 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
- 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	×

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	幅(m)-長さ(m)
〃 (幅0.5~1.0未満)	幅(m)-長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(m)-長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

別途計上
表面被覆工(復旧工)



P29橋脚

断面修復工

測点	寸法(m)	面積(m2)
P1	0.20 x 0.75	0.150
合計		0.150 m2

表面含浸工

合計 0.15m2

※断面修復(既設被覆材除去)施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
(過年度表面保護塗装施工箇所のみ)

当初設計図面

P29橋脚

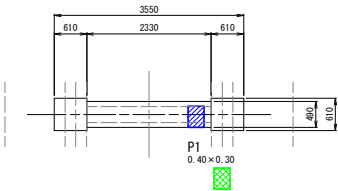
工 事 名	R8 渡土 西方原海部線(海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その10)		
縮 尺	1/50	図面番号	31 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波郡土佐橋事務所		

海部川橋 下部工補修図(その11)

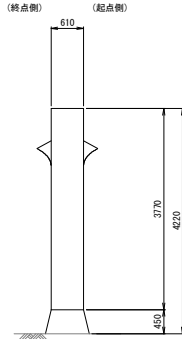
S=1:50

P30橋脚

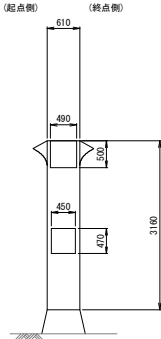
平面図(橋座)



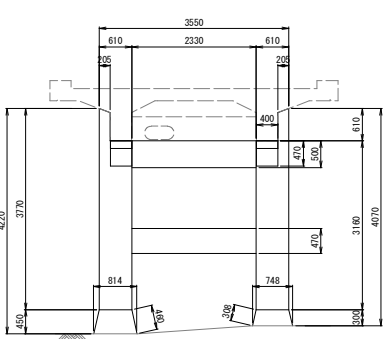
側面図(下流側)



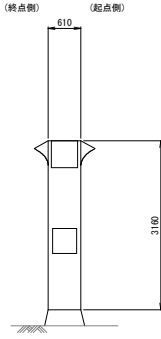
(柱内側)



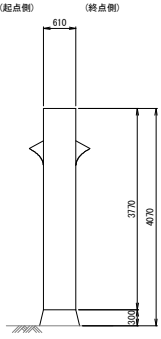
正面図(起点側)



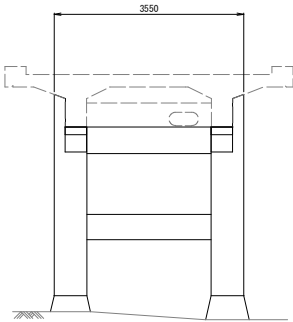
(柱内側)



側面図(上流側)



正面図(終点側)



P30橋脚

断面修復工

測点	寸法(m)	面積(m2)
P1	0.40 × 0.30	0.120
合計		0.120 m2

表面含浸工

合計 0.12m2

※断面修復(既設被覆材除去)施工箇所の
同上に表面含浸工を施工。
(過年度表面保護塗装施工箇所のみ)

1. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
2. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
3. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
4. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンドビット等を用い、U字形にカットする。
5. 劣化・不良コンクリートを研る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
6. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは研り除去を行うとともに、端部はフェーザーエッジにならないよう、カッター目地により既設部との接触面を10mm以上確保すること。
7. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工(幅0.5未満)	幅(m)-長さ(m)
〃 (幅0.5~1.0未満)	幅(m)-長さ(m)
ひびわれ充填工	幅(m)-長さ(m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	—

当初設計図面

工 事 名	R8渡土 西方原海部線(海部川橋)		
路線名等	海・大里他 橋梁修繕工事		
工事箇所	(一) 西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他(海部川橋)		
図 面 名	海部川橋 下部工補修図(その11)		
縮 尺	1/50	図面番号	32 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波渡土整備事務所		

P30橋脚

S=1 : 50

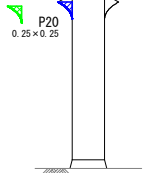
凡 例

補修の種類	図面表示
ひびわれ注入工 (幅0.5未満)	 幅 (mm)・長さ (m)
〃 (幅0.5～1.0未満)	 幅 (mm)・長さ (m)
ひびわれ充填工	 幅 (mm)・長さ (m)
既設被覆材除去	
断面修復工	
表面含浸工	

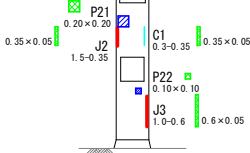
表面被覆工(表面保護塗装)
過年度施工 有無

橋脚柱	フーチング基礎
○	—

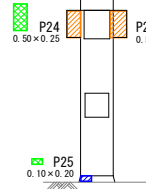
(終点側) (起点側)



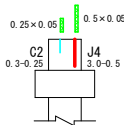
(起点側) (終点側)

[illegible]

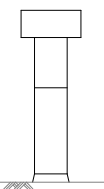
(終点側) (起点側)



(起点側) (終点側)



(起点側) (終点側)



既設被覆材除去

測点	寸法 (m)		面積 (m ²)
P1	0.25	× 0.30	0.075
P2	0.35	× 0.30	0.105
P4	0.40	× 0.55	0.220
P5	0.40	× 0.95	0.380
P7	0.20	× 0.15	0.030
P8	0.50	× 0.35	0.175
P9	0.30	× 1.00	0.300
P10	0.30	× 0.95	0.285
P11	0.50	× 0.35	0.175
P12	0.30	× 0.30	0.090
P13	0.30	× 0.40	0.120
P23	0.50	× 0.30	0.150
P24	0.50	× 0.25	0.125
P27	0.10	× 0.10	0.010
P28	0.20	× 1.20	0.240
P29	0.45	× 0.40	0.180
P30	0.15	× 0.10	0.015
	合計		2.675 m ²

合計 3.81m²

測点	寸法 (m)		面積 (m ²)
P3	0.10	× 0.35	0.035
P6	0.25	× 0.25	0.063
P14	0.20	× 0.25	0.050
P15	0.40	× 1.15	0.460
P16	0.30	× 0.20	0.060
P17	0.15	× 0.25	0.038
P18	0.10	× 0.10	0.010
P19	0.10	× 0.10	0.010
P20	0.25	× 0.25	0.063
P21	0.20	× 0.20	0.040
P22	0.10	× 0.10	0.010
P25	0.10	× 0.20	0.020
P26	0.10	× 0.35	0.035
P31	0.15	× 0.10	0.015
P32	0.20	× 0.10	0.020
P33	0.90	× 0.15	0.135
P34	0.10	× 0.20	0.020
P35	0.20	× 0.10	0.020
P36	0.35	× 0.10	0.035
合計			1.139 m ²

Technical drawing of a building facade showing various window and door profiles. The profiles are labeled with codes and dimensions:

- P26: 0.10 x 0.35
- P27: 0.10 x 0.10
- P28: 0.45 x 0.40
- P29: 0.20 x 0.60
- P30: 0.15 x 0.10
- P31: 0.15 x 0.10
- P32: 0.20 x 0.10
- P33: 0.90 x 0.15
- P34: 0.10 x 0.20
- P35: 0.20 x 0.10
- P36: 0.35 x 0.10

幅0.2~1.0未満

測点	数量
C1	0.35
C2	0.25
計	0.60 m

合計 0.03m²

幅1.0以上

測点	数量
J1	1.00
J2	0.35
J3	0.60
J4	0.50
計	2.45 m

合計 0.12mQ

※断面修復（既設被覆材除去）施工
箇所の上に表面含浸工を施工。
（過年度表面保護塗装施工箇所のみ）

2. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
3. 補修作業に際し、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。
4. ひびわれ注入工の対象は、開口幅0.2mm以上のひびわれとする。注入材はひびわれの最深部まで確実に注入するものとする。なお、注入パイプの間隔は30cm程度とする。
5. ひびわれ充填工の対象は、開口幅1.0mm以上のひびわれとする。ひびわれに沿って約10mm幅で円錐状のダイヤモンド等を用い、U字形にカットする。
6. 劣化・不良コンクリートを破る際には、健全部に損傷を与えることのないよう、コンクリートカッター等を使用して周囲に深さ1cm程度の切断目地を入れ、入念に施工すること。
7. 断面欠損部周辺の脆弱なコンクリートは剥り除去を行うとともに、端部はフェーシングにないよう、カッター目地より既設部との接触面を10mm以上確保すること。
8. 補修断面において既設鉄筋に腐食が見られる場合は、錆を落とし防錆処理を施した後、断面修復材にて復旧するものとする。

当初設計図面

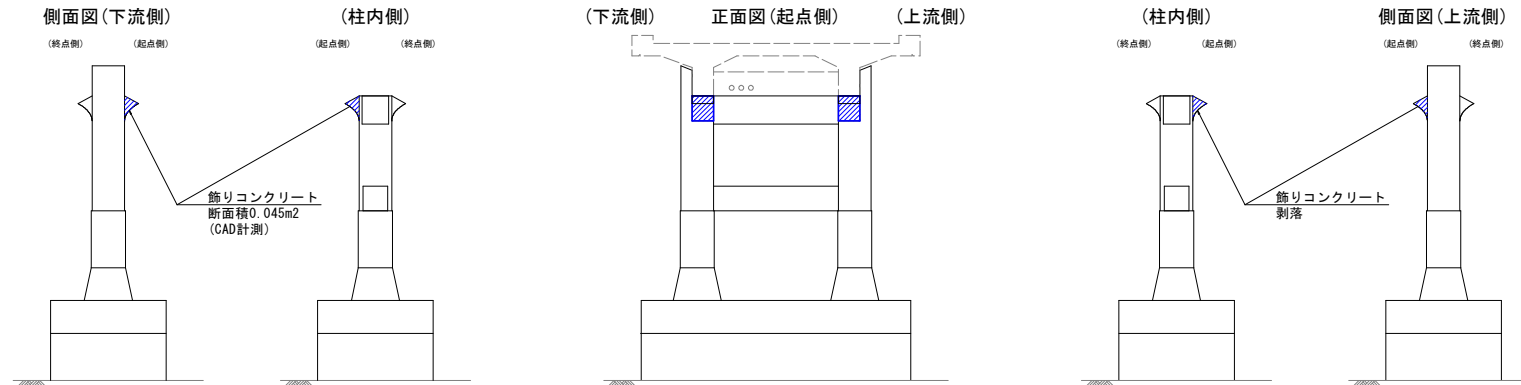
当初設計図面

P31橋脚

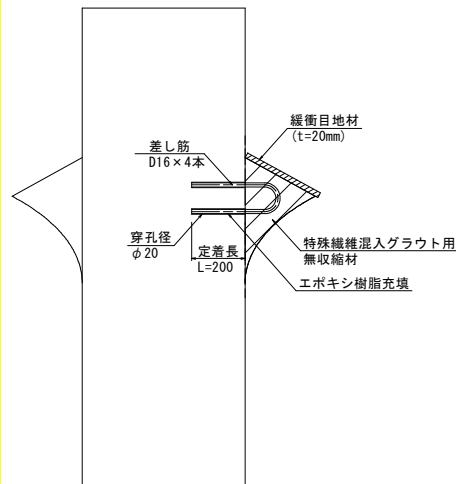
工 事 名	R 8 渡土 西方原海部線（海部川橋） 海・大里地 橋梁修繕工事		
路線名等	（一）西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里地（海部川橋）		
図 面 名	海部川橋 下部工修繕図（その12）		
縮 尺	1/50	図面番号	33 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波渡土整修事務所		

海部川橋 下部工補修図
飾りコンクリート復旧工 (P28橋脚起点側)

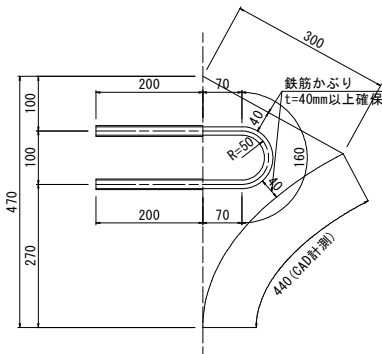
S=1:50



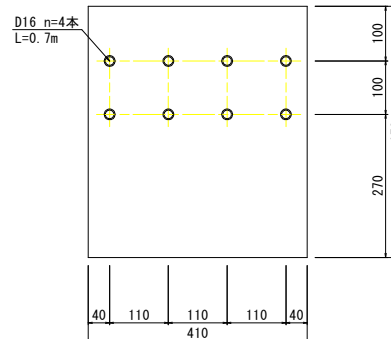
S=1/10



断面図 S=1/5



正面図 S=1/5



飾りコンクリート復旧工 数量表

上・下流側2ヶ所当り

名称	規格	算式	単位	数量
既設コンクリート撤去		$0.045 \times 0.41 \times P28橋脚(起点側・下流側)$	m ³	0.018
チッピング		$(0.47 + 0.30) \times 0.41 \times 2$	m ²	0.63
差し筋 穿孔	φ20 8ヶ所	$0.20 \times 2 \times 4 \times 2$	m	3.20
差し筋	D16 4本/ヶ所	$(0.70 \times 4) \times 1.560 \times 2$	kg	8.74
エポキシ樹脂充填材		$(0.02^2 \times 1/4 \times \pi) \times 2 \times 4 \times 0.20 \times 2$	m ³	0.001
特殊繊維混入グラウト用無収縮材	$\sigma_{ck} \geq 24N/mm^2$ 以上	$0.045 \times 0.41 \times 2$	m ³	0.037
同上型枠	小型	$(0.045 \times 2 + 0.44 \times 0.41) \times 2$	m ²	0.54
緩衝目地材	t=20mm	$0.30 \times 0.41 \times 2$	m ²	0.25
表面含浸工	シラン系	$(0.045 \times 2 + 0.44 \times 0.41) \times 2$	m ²	0.54

当初設計図面

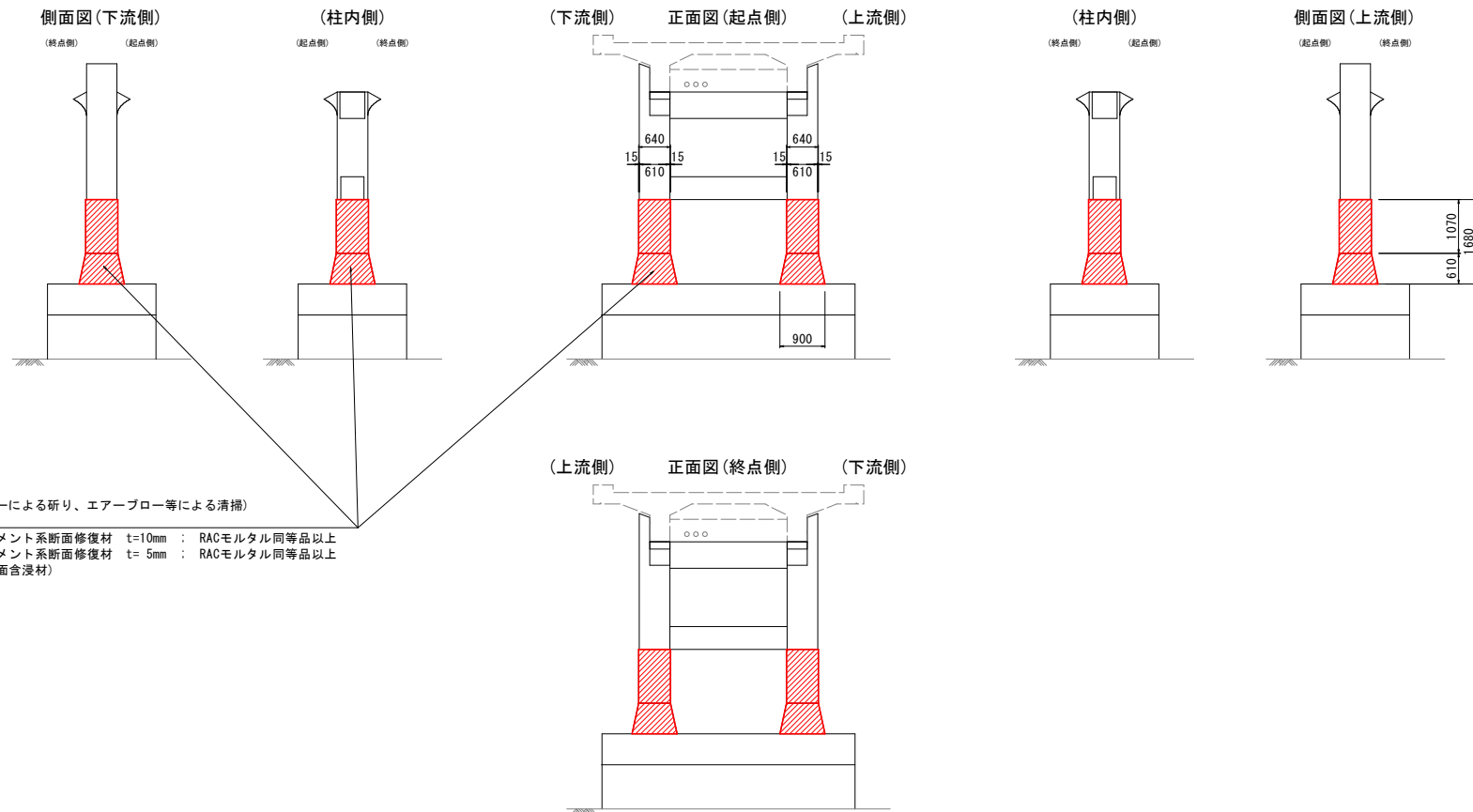
P28橋脚

工事名	R8渡土 西方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事		
路線名等	(一) 西方原海部線		
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図面名	海部川橋 下部工補修図 飾りコンクリート復旧工 (P28橋脚起点側)		
縮尺	1/50	図面番号	34 / 35
会社名			
事務所名	徳島県美波郡土佐橋事務所		

※ 施工にあたっては施工箇所及び施工範囲の確認を行い、寸法等について再度計測を実施し確認を行うこと。

海部川橋 下部工補修図
表面被覆工復旧工 (P28・P29橋脚)

S=1:50



表面被覆復旧工 数量表

名 称	P28		P29		単位	合 計
	算 式	数 量	算 式	数 量		
既設被覆材除去 (t=15mm)	$(0.64 \times 1.07 + (0.64 + 0.90) \times 1/2 \times 0.61) \times 4 \text{面} \times 2 - (0.64 \times 0.70 + 0.64 \times 1.07 + 0.64 \times 1.07)$	7.42	$(0.64 \times 1.07 + (0.64 + 0.90) \times 1/2 \times 0.61) \times 4 \text{面} \times 2 - (0.64 \times 1.07)$	8.55	m2	15.97
同上盛処分工 V:m3	$V=7.42 \times 0.015$	0.11	$V=8.55 \times 0.015$	0.13	m3	0.24
同上盛処分工 W:t	$W=0.11 \times 2.35$	0.26	$W=0.13 \times 2.35$	0.31	t	0.57
下地処理工	$(0.64 \times 1.07 + (0.64 + 0.90) \times 1/2 \times 0.61) \times 4 \text{面} \times 2$	9.24	$(0.64 \times 1.07 + (0.64 + 0.90) \times 1/2 \times 0.61) \times 4 \text{面} \times 2$	9.24	m2	18.48
不陸調整工 t=10mm	〃	9.24	〃	9.24	m2	18.48
表面処理工 t=5mm	〃	9.24	〃	9.24	m2	18.48
プライマー塗付 (塗布回数: 2回)	〃 (×2)	18.48	〃 (×2)	18.48	m2	36.96
プライマー使用量	$0.10 \times 9.24 \times 1.04 \times 2 \text{回}$	1.92	$0.10 \times 9.24 \times 1.04 \times 2 \text{回}$	1.92	kg	3.84
断面修復材 (ポリマーセメント系断面修復材)	9.24×0.015	0.14	9.24×0.015	0.14	m3	0.28
表面含浸工 (シラン系表面含浸材)	9.24	9.24	9.24	9.24	m2	18.48
含浸材 (シラン系)	$9.24 \times 0.35 \times 1.10$	3.56	$9.24 \times 0.35 \times 1.10$	3.56	kg	7.11

当初設計図面 P28・P29橋脚

工 事 名	R8 渡土 西方原海部線 (海部川橋) 海・大里他 橋梁修繕工事 (一) 西方原海部線		
路線名等			
工事箇所	海部郡海陽町大里他 (海部川橋)		
図 面 名	海部川橋・下部工補修図 表面被覆工復旧工 (P28・P29橋脚)		
縮 尺	1/50	図面番号	35 / 35
会 社 名			
事務所名	徳島県美波湾土整備事務所		

※ 補修に際し、施工箇所及び施工範囲を確認するとともに、寸法等を再計測のうえ復旧すること。
※ 不陸調整工、表面処理工
ポリマーセメント系断面修復材RACモルタル同等品以上を使用。